

會圖

師

唐土名勝圖會第一集卷之一	
目次	
序	引用書目
凡例	目錄
輿地圖說	輿地
歷代京都	直隸
直隸全圖	京師全圖
京宦	外宦
京師順天府	
大內全圖	大內

ル 5
987
1



九二五
987
1



唐土名勝圖

會初集

十一月廿七日

唐土名勝圖會序

海宇之无極。五氣昭布於其間。地平
天成。古今翫其理。而近論著人事。野史
家系之類。暨演義稗錄。稍助風諭。翼
彙倫矣。上自金門玉堂。膏梁純袴之榮。
下市朝嘈之口語。乃至情郎麗女之纏綿。

有書述其意。為首圖象其形。為雖不可
盡信。然其大抵則便。原易詩書春秋等。攸
既道以為據焉。莫復無禪於格致之業也。邪
矧伊皇朝。以德澤綏海內。以仁恩懷四夷。凡
圓顛方趾之族。雖外洋萬里。莫不無方土之
貨利。乘率從風向化矣。故東西兩都。家富階

珠人懷荊璧。於是優入於藝林者。尚要就出
肆搜委篋也。適至好事者。舉遺美於等
萊之間。注之造名勝園會。蠲資附梓。以當
世之嗜古者。以鳴國家之潛德也。若夫神
怪俳詭。不敢妄拾人手。頗饒曉為。屬者遂
遠彼清國之廊廟臺榭。王后之拱位。內殿

唐二名勝圖會
之舊儀。巡行之檢度。其他徬地名山。以圖
說傳者。志書典略之類。彈楫而較之。使老
畫師。分毫不爽。寫之。或國王細大。雜於句
配。則縮而合之。又衍而兩之。其所所有者。正不必
者。至所無者。正不必無矣。以小說數言。悉
譯之。大約讀是書者。儘能探頤以領。茲旨。

然權度在我焉。則縱令其辭淺俗。豈可
措也哉。况今車書混一之久。叨蒞洩彼國
秘。不踰几席。而昧諸斯也。則典故紀聞。粗
有資焉。覽者審諸。

文化二年龍次乙丑秋八月穀旦

播州 異田元繼

唐土名勝圖繪序



近時坊刻嘗有某名勝圖繪之書盛行乎世。於是羨風效顰者。從踵競興。蓋友陳而滯者。偏而僻者。分而未合者。缺而未完者。革以新之。周以正之。合以一之。補以備之。盡皆改冒以名勝之目。而其編輯之體。間象之製。十九皆是其副墨之子也。如是書其實紀。西清京師及直隸山川風土宮垣。

唐土名勝圖繪



府廡寺觀景勝人物故事。譯以通小圖。以象之。其紀譯之所出。並皆用纖略會典盛典諸書。以為其據。而細舉縷列。曲委詳盡。其輯述之功。可謂勤矣。而其標以唐土名勝之目者。乃尔洛誦之孫故耳。或疑如他名勝圖繪。並皆我土之所有。按其圖。可以推其實。訪其人。可以究其信焉矣。如此圖繪。壤異物蔓。實無不可由推。信無不可由究焉。

則安知其中無有無何有之鄉。烏有之山川宮觀乎。余曰。是徒恃心之言。不察諸其物也。方不言乎。無情者。不能盡其辭。此書以其紀譯之詳。圖象之悉。且以其用之費日。鏤板之費力。度尔可以知其非無據妄撰者也。且夫如我土諸名勝。雖在遠僻之境者。吾或可以躬詣而親訪焉。則其圖象也。紀述也。有時可以獲焉矣。如是書

所圖迹地已不可得躬詣事又不可得親
訪則其於或欲識之風土景勝以博其智
者也此其為必用不可廢之書者寧與彼
諸圖繪可同日而論也乎哉刻者乞序因
為題

享和四年春正月既望

皆川愿書



唐土名勝圖會序



為唐土名勝圖會者世甫為創之玉山
討論之圖象之態岳東野左右之橫
增有必序之曰所謂圖會者遠近之
圖象之不可不也其如先與陸費居
舌陸河陸費不能費者也河圖漢水之
居玉采穀旅比唐廷之球地圖列也

園室自願而障雲素蘇閣迤岫文
卦遊典三皇授歷觀彼象台舉古
今者此是不能也出日存奎原之
圖象也山川草木地之圖象也禮
樂衣器人之圖象也而春夏乎
各有其然冬乎者昂其支也極
言形數小因係係偏袒日北月誌胡

造而激非有宿地之南括之寸而
遊一可也此在茲去北是不能也二志行
之裝焉圖象之所不可已者為也
矣古之象運生動維管運位裝以
尚節唯能使焉依其用力于其智
而之屬伎之出危邪與取與也流依
以為自得者之圖象也蓋象以也而

未及於而也者禮之義也原創之付
論之以隆飾以潤色則何以如威儀
抑之氣者辨進退維却以是而可
謂之形而上者乎予所謂圖象
之不可以上者其是之謂而已矣今
於此舉也世爾學創之玉山乃
以態岳東望圖象之討海陸

潤之事亦不苟而全哉予於是謂
公或材留名據圖會者多其填
將序者去其懈乎吾唯予序之
不悅爾世爾名孔宗彌意最
當名聲藉世情物急一人也玉山
態岳東望圖象之討海陸
人亦宜有始於志也

文化乙丑... 州... 有... 一



Faint vertical text bleed-through from the reverse side of the page.

引用書目

天下輿地各省全圖
輿地一統各府全圖
宸垣識略
欽定大清會典
皇朝禮器圖式
欽定萬壽盛典
欽定南巡盛典
欽定三禮義疏
欽定授時考
欽定靈臺儀象志
十六省名勝通志
名山勝槩記
遊名山記
五岳遊草
日下舊聞
燕都遊覽志
客燕雜記

山海經
水經注
佩文詠物詩選
御製詩文集
國朝詩別裁
二十一史
明史
魯班經
海內奇觀
輿地志
佩文齋書畫譜
列仙傳
劉向列女傳
大明一統志
三才圖會
古跡記
宣和畫譜

順天府志
保定府志
廣平府志
順德府志
宜化縣志
正定府志
大名府志
河澗府志
天津縣志
永平府志
方于魯墨譜
太湖備考
方輿勝覽志
寰宇記
輿地紀勝
郡國志
圖繪寶鑑

凡例

一 斯書題とるス斯名を以てとる
 皇和の諸名所圖會と愧附とるに何んは但彼去
 の廣表たる一舉に盡しあつた姑く京師直隸部
 と編述し日月を以て歴舉せんと推考して今より
 題とるに唐土の名を以て且始より終りあるを
 土地人物歳時器財とてくく名勝と何んは
 多々なきが故に泛斯多分冠とるの
 一 斯篇九て六卷首に卷の京師後の二卷の直隸部
 と更ら首に卷の中先古今の沿革と述輿地の
 全圖を編出し彼去此局と彼去の方位の大概と

あるは次々大内次々皇城次々外城次々花園部欄
 と記とい大略既立とて本立川本立て末と及ん
 意たり後の二卷の順天府と始はし諸府と後
 一 諸州を附記とるも意同
 一 每卷首に總圖を置是と懸して主たるを以て始
 方位に隨て順叙し府城と始て縣と及び州
 一 及びべも意上回の
 一 始の編圖の輿地の全圖輿地志一統志京師の位置と
 宸垣畿略直隸部の諸州府志禮樂祭祀公事式月
 二部の盛典及び大清會典器財衣服の禮器圖式靈
 臺儀象志多ふりし故に人物居處山水草木等

及ぶまで有用の諸書を照し異同採考し彼此と互澄し毫も杜撰せざる徴を引用の書目を首に録しる事あり

一古今此詩を徴しあつたに殊

吾邦近時諸名家の書と法とくく落致と明まるとふ歳の知音千里に接踵の凡流を集流せば亦懐懐なりけや

一每巻目録に就く諸名勝とくめ毎部に終るに就て吾人の産地事業をとりこれと總圖を照しつは直隸部京師其もとと堂を指がじし漢史家及び博物者流に於て庶幾の小補なりん故唯外遊のこれ備なりんや

唐土名勝圖會卷之一目録

輿地圖説	輿地全圖	歷代帝都	直隸
京畿直隸全圖	京師全圖	京 宦	外宦
京師順天府	大内	皇帝夏朝冠服像	皇后冬朝冠服像
午門	大和門	大和殿	中和殿
保和殿	内閣	諸教房	起居注館
文華殿	傳心殿	大庖井	文淵閣
上駟院署	崇 亭	御茶膳房	三座門
撫芳殿	御藥庫	國史館	鑾駕內庫
戶部內庫	東華門	武英殿	尚衣監
器皿庫	咸安宮	箭子河	三通館
方畧館	回子館學	緬子館學	內務府署
廣儲司署	御書署	磁器庫	南薰殿
西華門	乾清門	乾清宮	昭仁殿

- | | | |
|------|------|------|
| 弘德殿 | 上書房 | 懋勤殿 |
| 交泰殿 | 坤寧門 | 御花園 |
| 神武門 | 景仁宮 | 承乾宮 |
| 鐘籥宮 | 東一長街 | 永和宮 |
| 景陽宮 | 東二長街 | 天宮寶殿 |
| 乾東五所 | 蒼震門 | 毓慶宮 |
| 敦本殿 | 仁祥門 | 永壽宮 |
| 細坤宮 | 陽曜門 | 啓祥宮 |
| 長春宮 | 儲秀宮 | 重華宮 |
| 延慶殿 | 咸福宮 | 養心殿 |
| 穿堂 | 撫辰殿 | 寧壽宮 |
| 兆祥所 | 御膳房 | 壽安宮 |
| 雨華門 | 慈寧宮 | 壽康宮 |
| 城隍廟 | 寶華殿 | 中正殿 |
| | 紀馬神所 | |

唐土名勝圖會卷之一

故兼段堂木世肅先生遺意

岡田玉山尚友 岡田 熊岳文暉 大原東野民聲

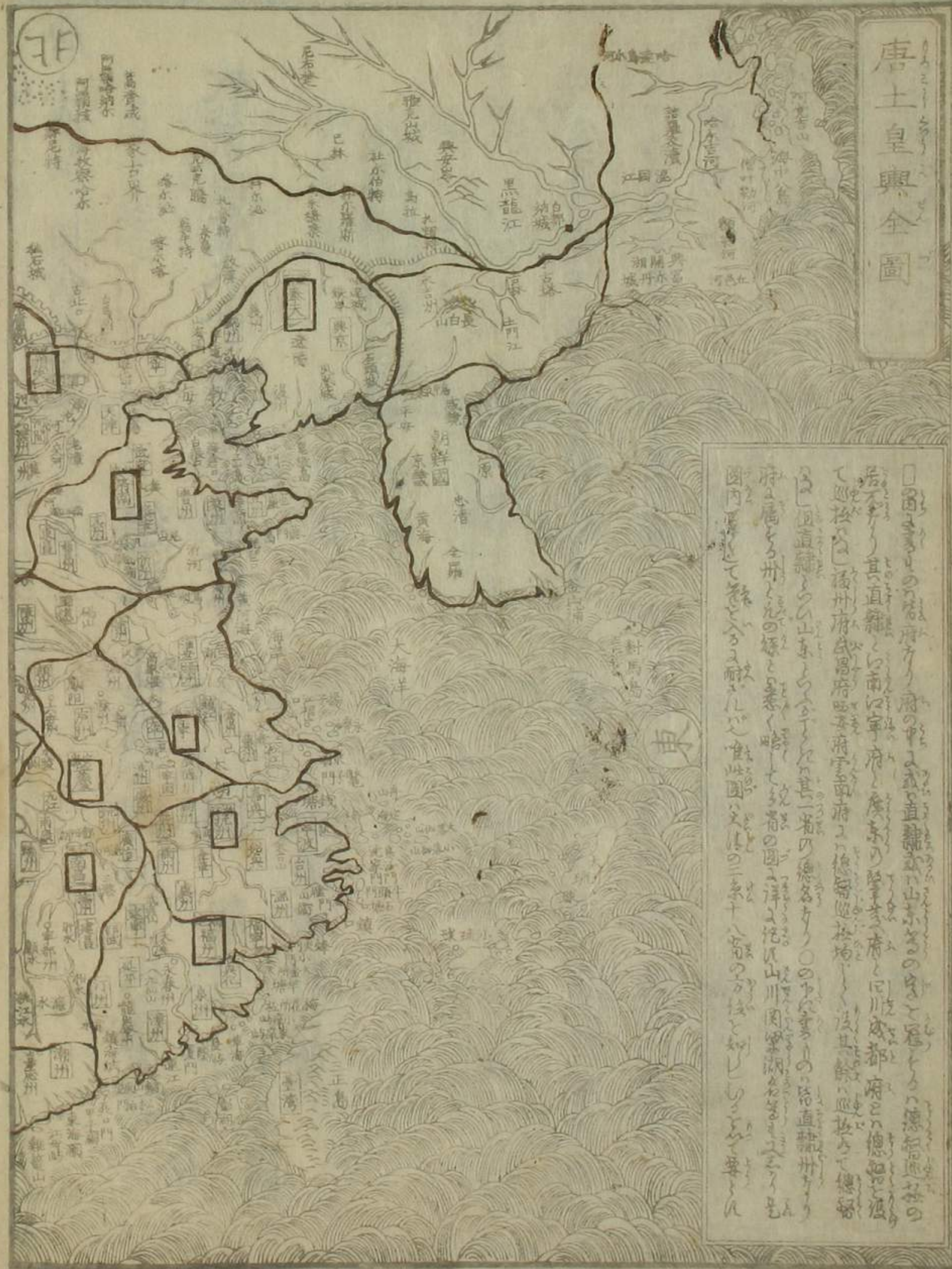
全 畫

唐土皇輿圖之説

日本國より唐土と唱る國ハ亞細亞州の中より北極出地二十日及び度より北十二
 三度乃至たる大國なり。往古伏羲神農の天下を治めたりし時東國号と
 五るものよし。帝堯功て國と唐と號せりしより彼國と稱して唐土と稱す
 李唐の時。日本より高官の臣を命て物言ひのたれとて入唐せり。唐の神農が教これ
 され。日本より一の大内裏の唐より大内裏といふ。唐の建ちし世治りたり。かく日本と唐朝とを
 對して唐の代り唐と稱す。唐は唐の月稱たり。唐を以て彼國と名して唐土と稱す。唐の
 異はこれなり。日本より唐に對して唐と稱す。唐は唐の月稱たり。唐を以て彼國と名して唐土と稱す。
 日本に對して唐と稱す。唐は唐の月稱たり。唐を以て彼國と名して唐土と稱す。

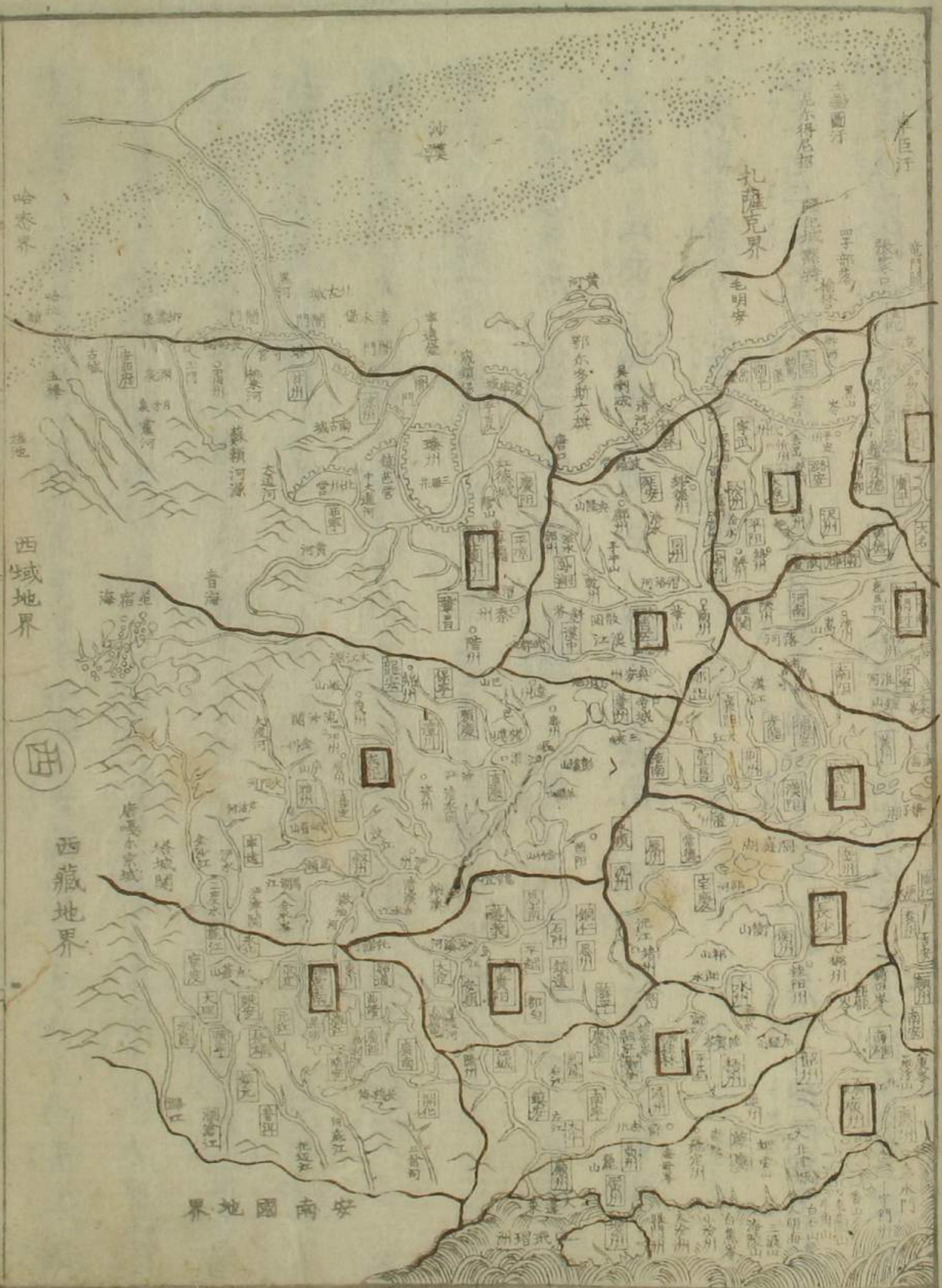


唐土皇興全圖



唐土皇興全圖の序文。唐土の版圖を詳述し、その疆域の廣大なることを述べ、また、唐土の政治制度や文化の繁栄についても言及している。この図は、唐土の全境を網羅し、その地理的特徴や行政区域を明確に示している。

輿地圖說



西域地界、西藏地界、南詔國南界。この図は、唐土の西境と南境を詳細に描き、西域と西藏との境界線を示している。また、南詔國との南境も明確に示されている。この図は、唐土の西部と南部の地理的特徴を詳しく説明している。

讓と受りて國号を唐と改め天下を十二州に分給ふ是より代々の天子國号を夏より州郡を改め衣冠の制より官爵の名も改めしと改めしとすは禹王天下を治め給ふ國を夏と號す九州を以て相繼ぎ殷周秦漢三國兩晉南北朝隋唐五季宋元明より今乃清とありて或は舊に治政の制より其の制度を今より清の順治帝明を討て天下を定め康熙の御代に至りて四夷八蠻と統一し國を分く二京十八省と以て大槪明の制度よりなり。

- 京師順天府 盛京奉天府 直隸 山東 山西 河南 江蘇
- 安徽 江西 福建 浙江 湖北 湖南 陝西 甘肅 四川
- 廣東 廣西 雲南 貴州

已上を二京十八省とす。日本より五畿七道と分給ふ。抑唐土の地取たるや東の小東洋の滄海よりふい萬里の沙漠あり同じ及びる廣き沙漠を一根の草

と生む所謂不毛の地これなり。沙漠のわが皆胡地にして代々中國を寇せし者而も一より一に夏の時は寇り秋を獲鬻とす。殷は執せし孤鬼方とす。周は後稷より秦漢は白奴とす。唐は突厥宋は契丹各中國の患とせし處なり。秦乃始皇其臣蒙恬を命じて西の蘭州より東の遼東まであり。萬里の長城を築きて以て北胡を防ぐ儀とせり。而も是れ時勢の人力とせん。禦ぐるに遠くを元を胡國より出で燕冀の間に都を建今の清は東北の蒙古滿洲の夷なり。明朝は燕の無道を討て國賊を滅して義と稱へ。北民と接して中國の正統を繼いで其の基業となせり。それより一は遼東遼西の地は偏僻の所と稱せし。今清の本國は通じざるを以て當時盛京奉天府の昌の古と内より一は板西のうら大流氷と隆し。西域は接し。南は安南交趾と連り。渺茫なる大洋中よりは呂宋亞瑪港等の壘塔あり。凡地方六万余里。日本

百餘里其下乃一時乃氣候偏多乃人物心志五穀之登久名山石
 勝奉てつる乃以東流する大河の黄河漢江の二流を冠し海河淮江とに流
 とつり黄河源の西臺の地崑崙山の西南早名海より出て水流して塞北
 を環す南に折陝山西の界龍門山を龍門して流下り江南に流して南海へ
 漢江の蜀の岷山より出て屈曲する金沙江大度河其余大小の河水合流江南
 及び揚子江と稱し河の廣さ十餘里天下第一の大河は名山の五岳
 五嶺天山雁宕武夷廬山羅浮山峨眉山点倉山等をとり先とし
 奇岳靈山の聳峙する蒼天と早の群を照らすと江南の地の唐文
 第一の勝蹟京口の三山錢塘江西湖浙江の景色蘇州杭州乃繁華
 悉くそつる大江は浙て武昌府に洞庭湖あり蘇氏が賦せし希世なる
 岳陽樓滕王閣と此造りたり蜀の棧道の峻なる天下の甲と長安洛

陽の舊都に未英安房のいっへを押ししや山東兗州府の春秋の
 魯國と今も孔林の聖廟ありて終りはしめ及そなるしそも名
 勝設跡事実あるや爰に奉てもるたりつ編中各省の其事下
 統て画圖と文意と相照して其委細を知べきなり先用卷の輿地の圖を
 是く唐土全國の方位を知しつ次は直隸の一省と圖して京畿の府と州と
 縣と山川と關梁との位置を定り次は京師の徳圖とわして五城の列八旗の
 居址を明し次は其内の全圖ありて外朝内宮門殿樓閣の連続せる次第と詳し
 其内の正南午門より九重門殿及び皇帝后皇后妃嬪御の居所百寮乃
 侍直せる諸府署の填處文淵武英の殿閣より酒醋房城隍廟と定ると分ちて
 審み圖記し凡首卷の大内と載て卷をえり二卷うは皇城を詳し三卷の内
 城に卷の外城苑圃郊圃五六卷を及びて直隸省の勝蹟と都府每に全圖を

並て属する州縣山川宮室公署園堡寺觀祠廟古跡等の位置を知しむ此編
後直隸一省の終る山東江南及び諸省の次編又次第して撰載也希全編
成るに俟て熟讀せば唐土の地理を於る繁榮と掌中と見るが如くならん

歷代帝都

歷代帝王の都せり地を考る小伏羲の陳二都と建
日ト云曲阜二都とト云曲阜今の山東
曲阜 顓頊の都の帝丘 今の山東曹州府
帝嚳の都の亳 今の河南開封府
唐堯の都の平陽 今の山西平陽府
夏の都の安邑 今の山西平陽府
商の都の亳 今の河南開封府
周の都の
豐 今の陝西
後又長安に移す 洛陽今の河南開封府
東漢の都の再洛陽又三國の魏の都の鄴
蜀の都の成都 即ち四川成都府
西晋の都の洛陽

陽 東晋の建業を都とす 建業 今の南京
宋齊梁陳の都の俱建業 宋の都の建業 齊の都の建業 梁の都の建業 陳の都の建業

都の長安 後洛陽 後長安 唐の都の長安 長安洛陽 唐の都の長安 長安洛陽

遼金元明の都の均 今の京師 順天府 清の都の北京 順天府

の北京 此地宛平大興の二縣を跨り北極星地を占む 三十九度又十八分

又滄海と環し右に大野を擁し北に居庸の關を控え南に河濟の流を

濫し秋勢天下を中し 漢又天府の國と云ふをたれり

直隸

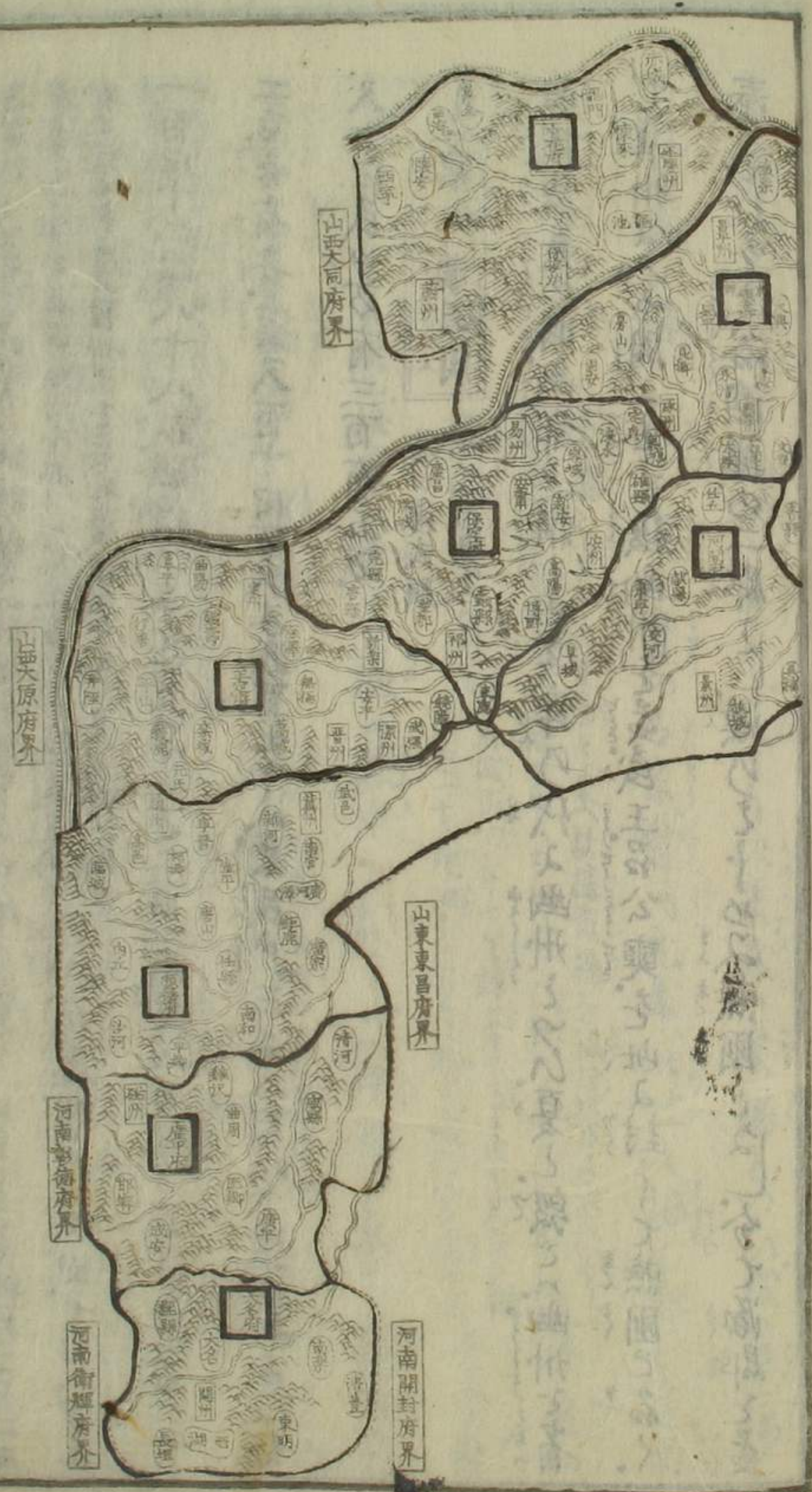
直隸といふ都部刑部工部之六都直隸之總の地也

京畿の地なるや東に海に下り南に山東に界し西に山西に接し北に遼

保定府 鎮州三縣 永平府 鎮州一縣 河間府 鎮州一縣 天津府 鎮州一縣 正定府 鎮州一縣 順德府 鎮州一縣

直隸全圖

○□□ 縣州府



直隸全圖... 順天府... 保定府... 宣化府... 歸化府... 澤州... 沁州... 潞州... 兗州... 沂州... 臨沂府... 徐州府... 曹州府... 濟寧府... 德州府... 東昌府... 濮州府... 開封府... 鄭州府... 許州府... 汝州府... 南陽府... 襄陽府... 均州府... 德安府... 武昌府... 漢陽府... 荊州府... 岳州府... 衡州府... 邵州府... 辰州府... 沅州府... 岳陽府... 常德府... 益州府... 梓潼府... 遂寧府... 合州府... 萬州府... 忠州府... 涪州府... 南賓府... 永寧府... 涪州府... 南賓府... 永寧府... 涪州府... 南賓府... 永寧府...

唐地分勝圖會

直隸

卷之一

唐土名勝圖會

直隸

六

府鎮標 廣平府鎮州一 大名府鎮州一 宣化府鎮州三 遵化州鎮標 易州鎮標 冀

州鎮標 趙州鎮標 深州鎮標 定州鎮標 以上府九州六星を直隸と云明代

の地順天府六興平の州七あり。元の宣寧州山東洛陽の總管府を長く地を我全郡
指揮使司と爲り。趙州永寧縣の州鎮を於て。京師と俱に十一あり。漢朝魏天漢府
を益義都指揮使司をたり。たつて宣化府は。真定府を云々。九直省の民回七百八万

一百三十二頃八十八畝賦銀二万九千六百一十二兩一兩折八百四十万六千二百二十
二石有奇。又百十口又百七十八家民戸二万八千八百八十口又百三百
八十口民口万有三百有五万。

京師順天府 易曰湯武順乎天而應人

此地唐堯の時幽都と稱し。虞舜の代又幽州とつひ夏と殷と幽州と省
て冀州と入る。周又よみて後幽州を長武王召公奭を此に封して燕國と名く。
秦これを上谷滹陽の二郡とし。漢これをとつて又燕國とよみ。分て涿郡と長

元將奉中改めて幽州と号し。まより以来我の廣陽とつひ我の滹陽と

つひ又幽と稱し。燕と唱ふ。遼の古京會同元年此地又初て都と建南

京折漢府と名く。 燕の廢と方三十六里。三六款樓殿橋を設け。方八の門あり。宋の宣和

年間。つたたく燕山府と名く。 府城周回二十七里。樓臺の妙。是十より。金の貞

元元年。令を亮此地と奉し。遂に燕京と稱し。又中都と号し。折漢府

と改り名て大興府と。即此に都と云ふ。 都城の周圍七十五里。方十二の門と開く。内宮

は又彩の龍と畫き。率駕出入の外。は又開く。右の門は風を畫き。西の門は日。東の門は
文武の出入とる。ひん九の殿三十六の門。七の宮。五の門。と云々。帝はは後とを
名に内都と稱し。西は十六後と名る。外は北の門。其外は長慶仁政殿。元初。成
制。召見。奉幸。楊宣。統。村。の。方。内。城。の。西。五。華。門。外。は。日。興。國。強。壯。道。遠。瀛。海。の。鏡。圖。あり。世。祖。ことごとく

元の初年。此地を燕京路と号し。世祖の至元元年。再此を中都の山。三里

都城を築き。改り名て大都路とす。 京城方六十里。二百に十歩。方五の門と開く。南を正

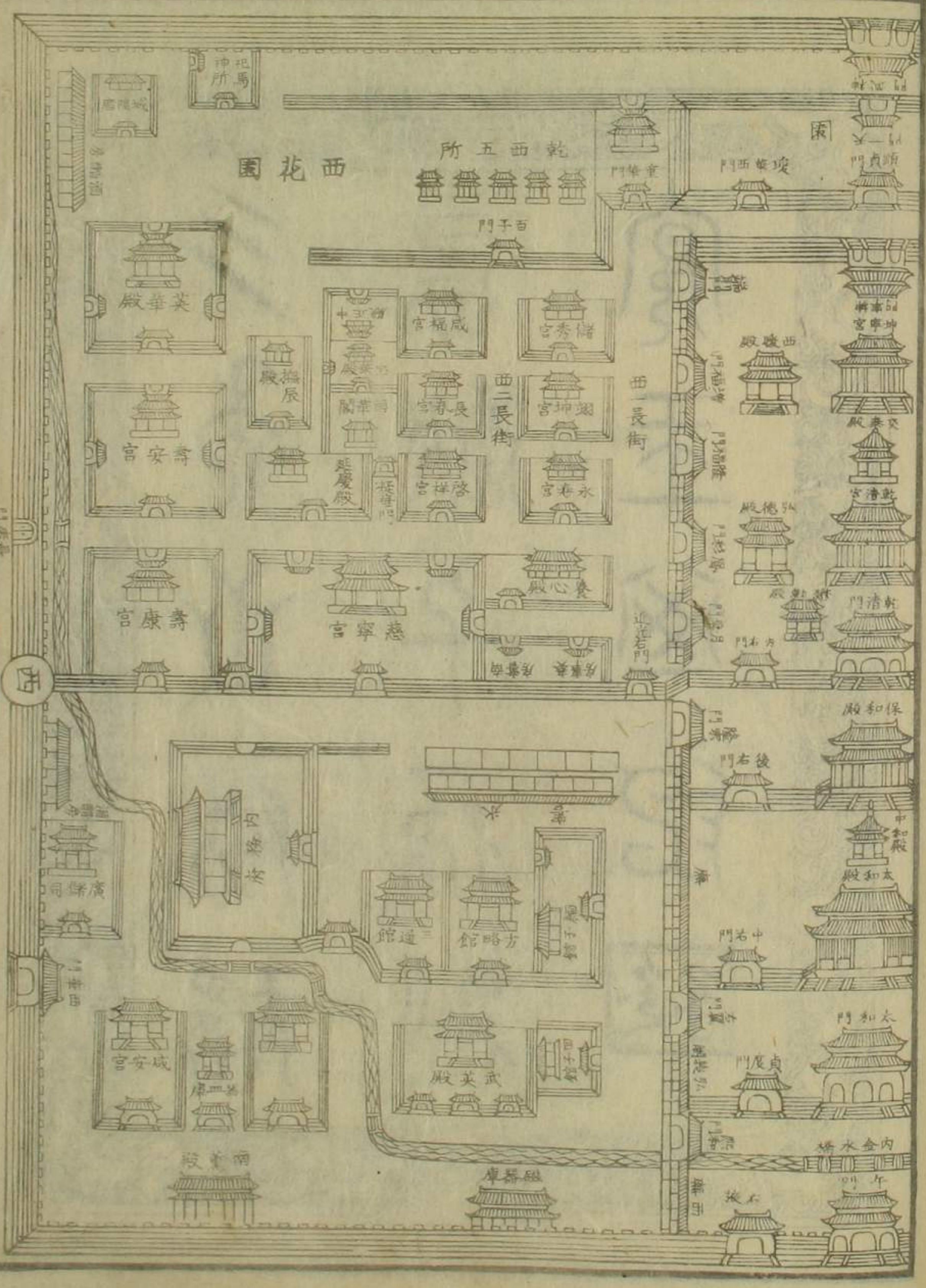
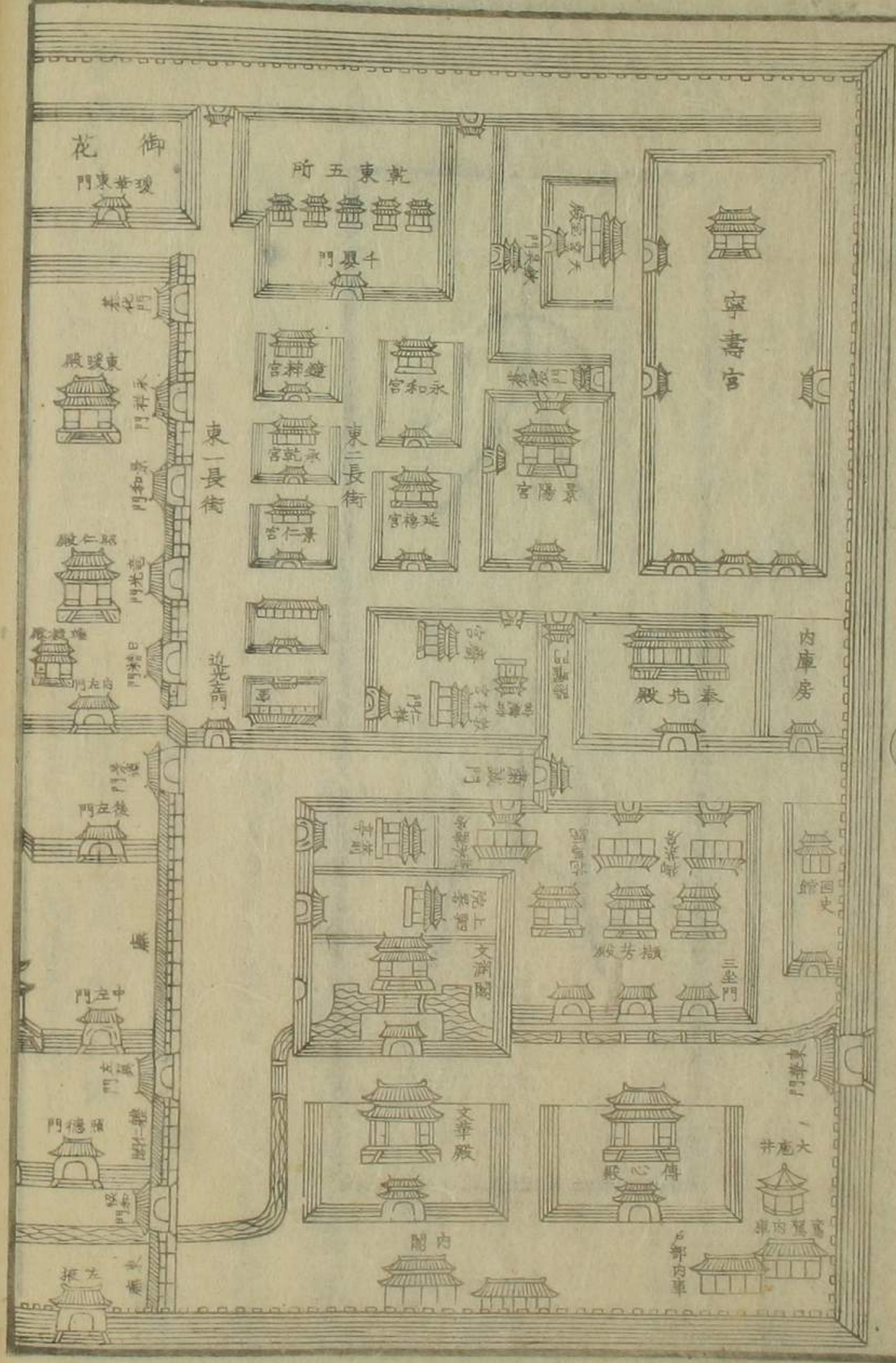
北門。東の北の光熙門。西の和義門。西の南を平則門。西の北の輔門。北の二門あり。健德門。安貞門。と云々。南を正
宮城。周九里三十歩。親を控へて。これを築き。北の門あり。南と東。天門と云々と。是拱門。右と聖後門。東方と東

唐土名勝圖會

順天府

卷之一

大內總圖



東



大清皇帝御夏朝冠服之圖

○朝冠織玉草或藤絲竹絲為之
 綠石書片金二層裏用紅片金
 或紅紗上綴珠綺前綴金飾
 東珠十五後綴舍利飾東珠七
 頂三層貫東珠各一皆以金
 龍各四飾東珠如其數上樹大
 珍珠一

○朝服色用明黃披領及袖俱石
 青片金綴緞紗繡文兩肩前後
 正龍各一雙積行龍六列十二
 章俱在衣間以五色雲

○朝珠用東珠一百零八佛頭記
 念背雲大小墜珍室雜飾各惟
 其宜大典札御之飾明黃色

○朝帶色用明黃龍文金圓板四
 飾紅寶石或藍寶石及綠松石
 每具銜東珠五圍珍珠二十左
 右佩粉淺藍及白各一下廣而
 銳中約鑲金圓結飾室如版圓
 珠各三十佩囊文繡燧箭刀削
 結佩惟宜繡皆明黃色大典札
 御之

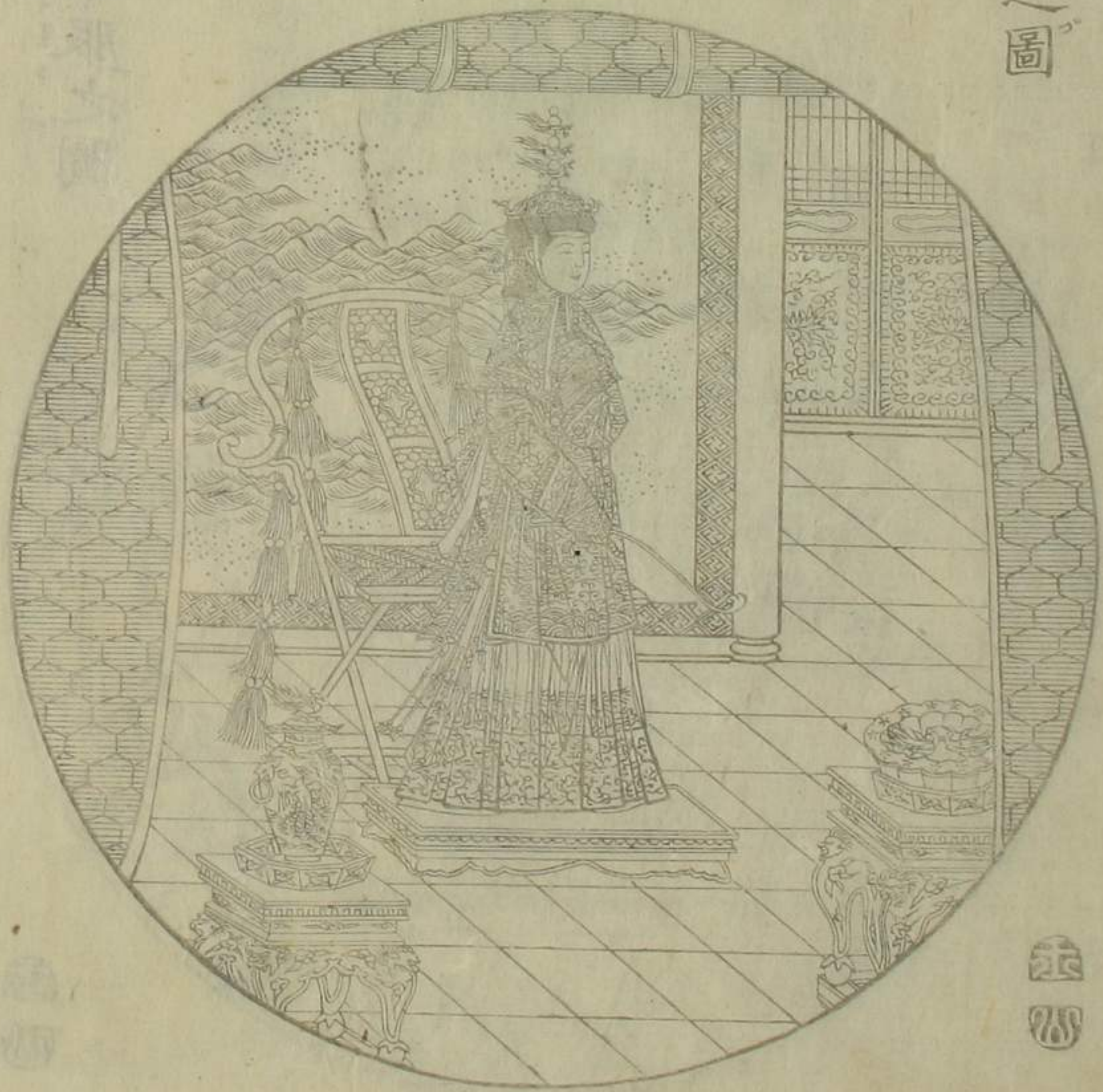


皇后御冬朝冠服之圖

○朝冠蓋額為之上綴朱緯頂三層貫東珠各一皆承以金鳳飾東珠各三珍珠各十七上樹大東珠一朱緯上週綴金鳳七飾東珠各九捕睛石各一珍珠各二十一後金翟一飾貓睛石一小珍珠十六翟尾垂珠五行二就共珍珠三百有二每行大珍珠一中間金銜青金石結一飾東珠珍珠各六未綴珊瑚冠後護領垂明黃縵二末綴寶石青緞高帶

○朝袍色用明黃披領及袖俱石音片金加貂緣肩上下襲朝裙處亦加緣繡文金龍九間以五色雲中無雙積下幅八室平水披領行龍一袖端正龍各一袖相接處行龍各二領後垂明黃縵其飾珠室

○朝裙片金加海龍緣上用紅織金壽字綴下石青行龍紐綴皆正幅有雙積



大内

大内とい天子乃御座を鎮りし後此禁禁城と云方也

南北三百三十六丈二尺四方各東西三百二十九丈五寸

大門あり

正南を午門と北を北門と東を東華門と西を西華門と

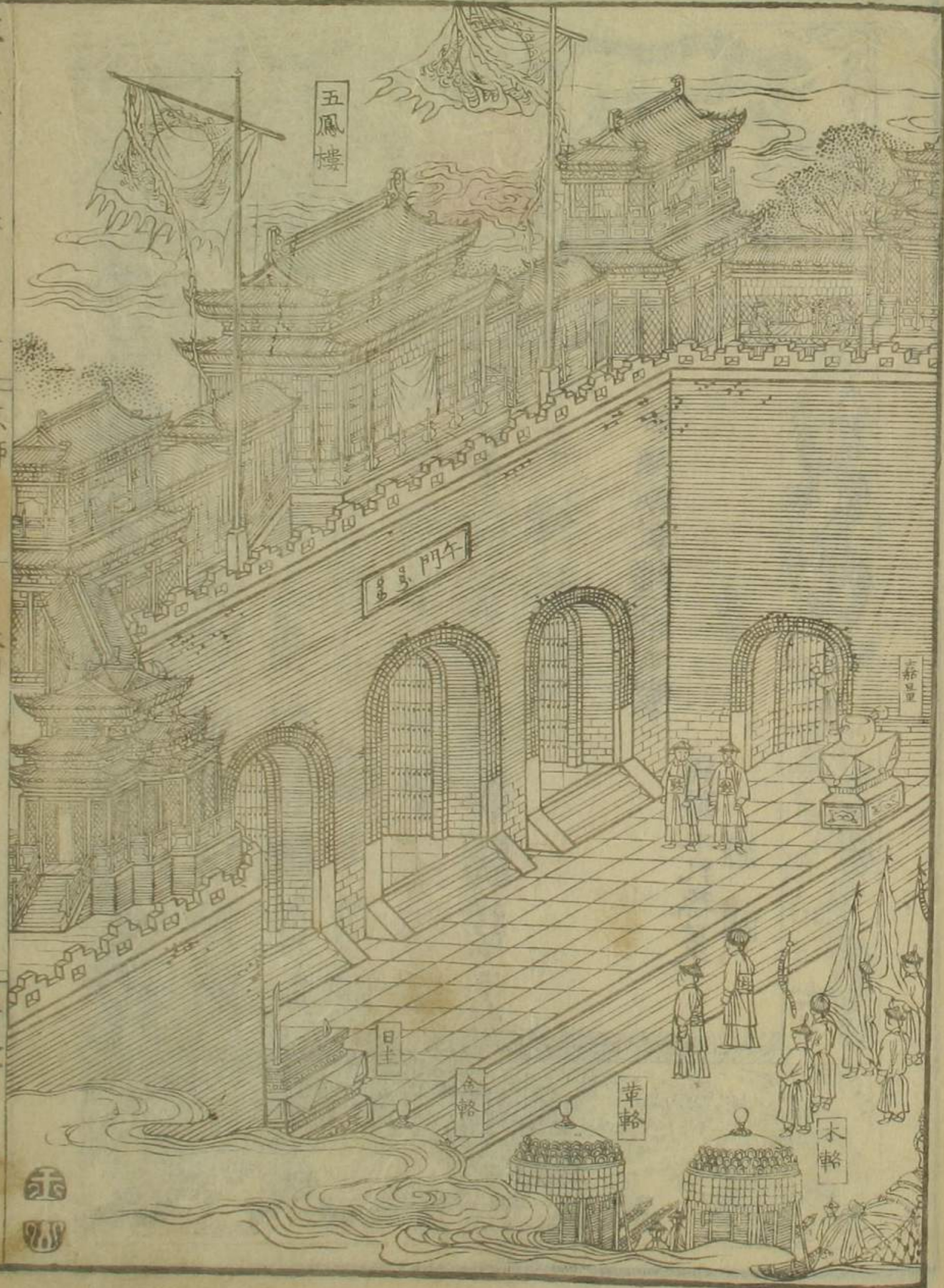
午門

大内の正中南の門也度々九回三の門あり上は重樓を覆ひ南北台形麻三十六あり門の左右は嘉量と石右は日圭と設けしを右は各機門あり西は向ふ若と右機門あり

天子の駕午門と出入り時門上は鐘を鳴し天子を廟とありは門上り敷をわたり百官朝参乃侍る鐘鼓も等しく鳴せり又お策朝歌を討て凱旋し後とよる時其後を受るの礼とひびき入又あ歳十月初午門の外は時憲書と頒り給ふ

午門朝參之圖

元氣未起之時
大朝會無御其外
慶典は午門外
内之朝門
大和殿乃
丹陛
御座



五鳳樓

午門

正殿

革轎

木轎

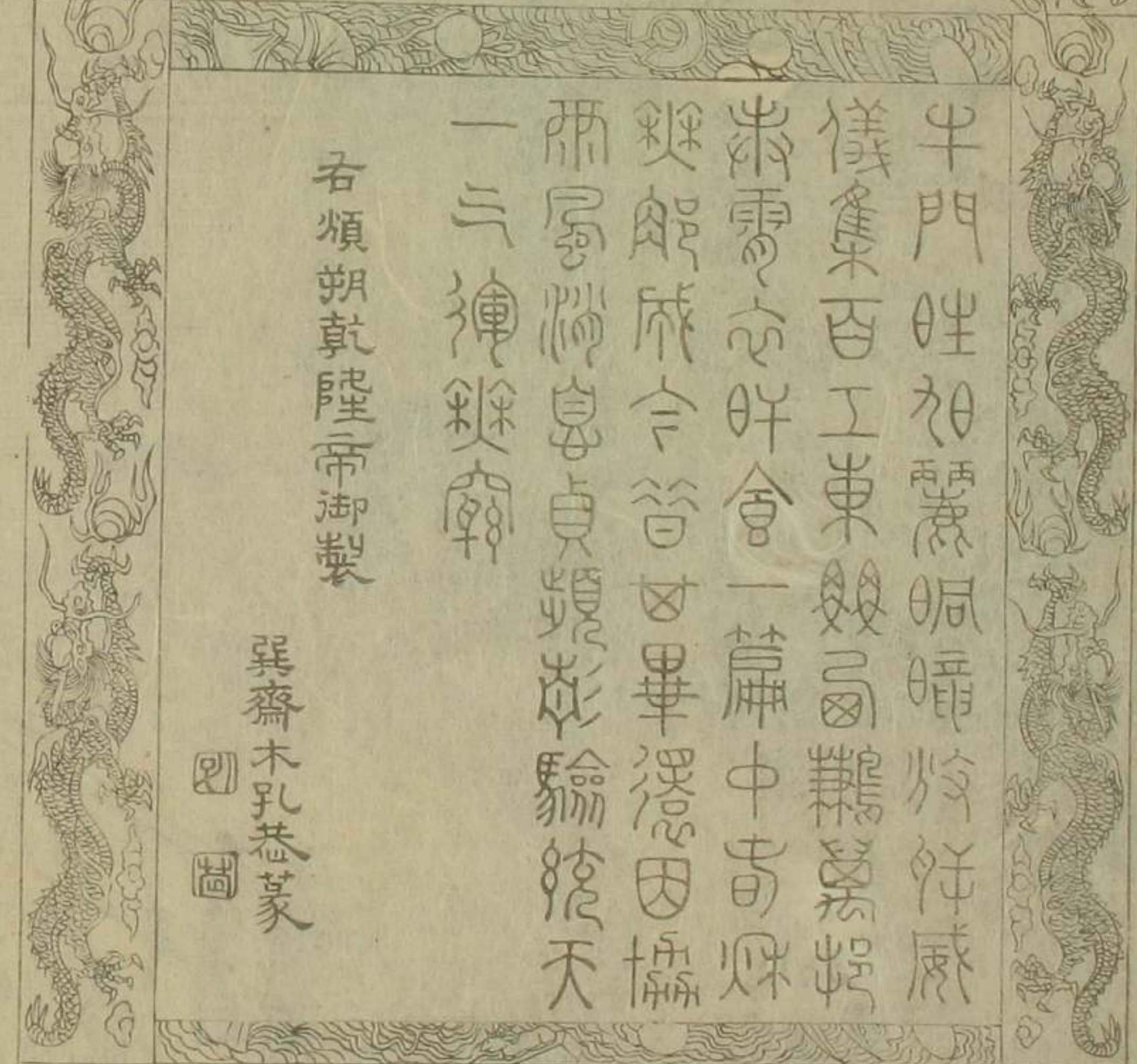
金轎



牛門性如驚風暗放祥威
 儀集百工東殿西鸞嘉
 肅雲心叶會一篇中奇
 輝輝威令晉甘畢遷因
 兩屬湖島貞類花驗竣天
 一三神機

右頌朝乾隆帝御製

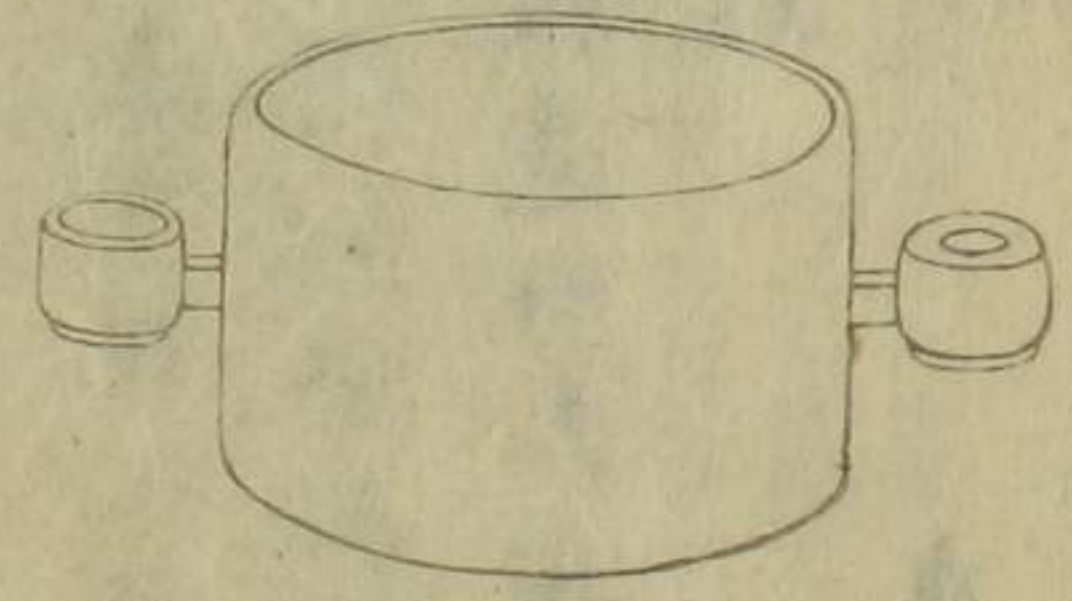
異齋木孔恭篆
圖



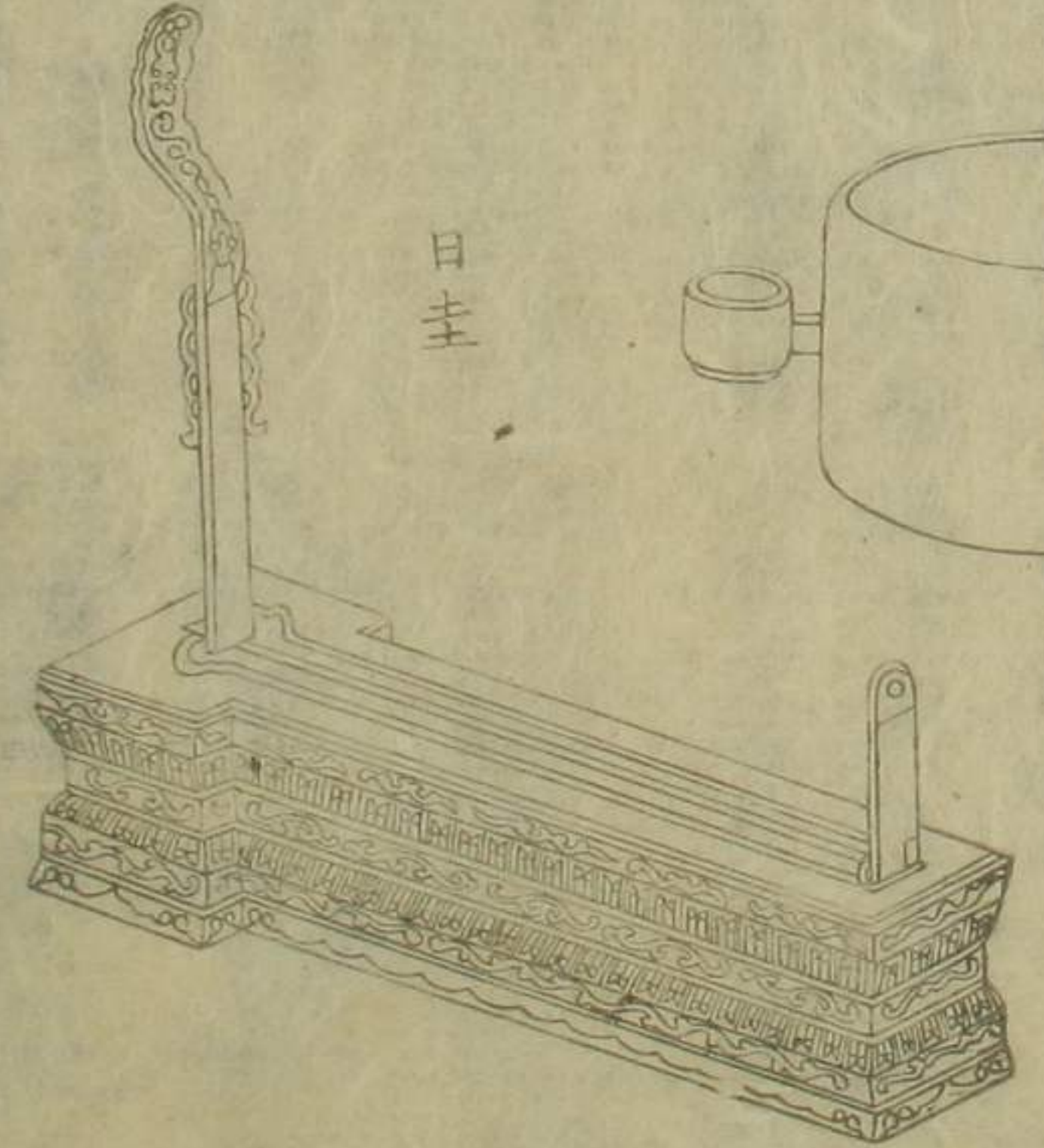
日圭嘉量之圖

日圭日之長短赤道南北の方位をい
 其方より嘉量ノ斗斛を測り
 此二の器を以て嘉量の正門とす
 下圖を以て嘉量の正門とす
 附と接くとまづ其樹と日入れとす
 左二正門の左右に設天の時と時
 刻とす一と海内と統するの正門と
 其方より嘉量ノ斗斛を測り
 つつし其方より嘉量ノ斗斛を測り
 今午門の外に建る日圭嘉量を以て
 衆人示以正法の者として此正法
 也日之長短を測りて其方より
 其方より嘉量ノ斗斛を測り
 其方より嘉量ノ斗斛を測り

嘉量

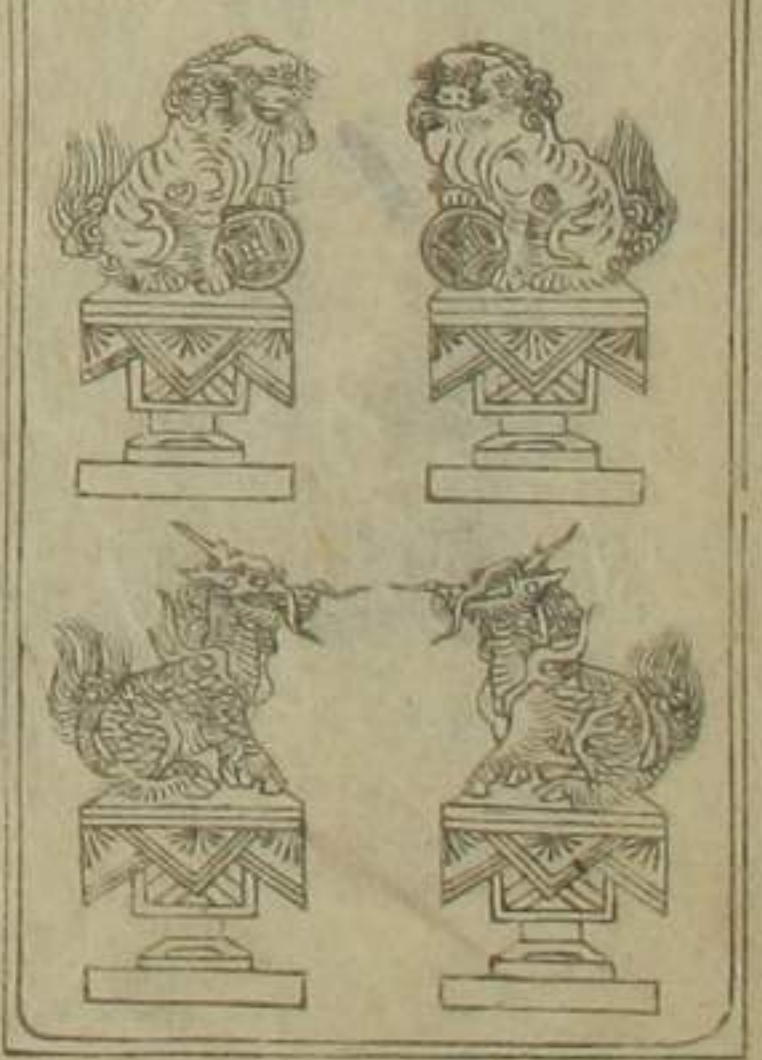


日圭



銅獅之圖

銅獅金麟と門殿の石に列る其祥瑞の若くは威威とくやして門の徳漢とせむ者なり



嵯峨園園啓雙銀帝闕遙看綵仗班伏地敢違措咫尺瞻天只在殿中間楓門劍佩朝方啓草野衣冠拜未嫺但愧聖恩無可報遙呼萬壽指南山

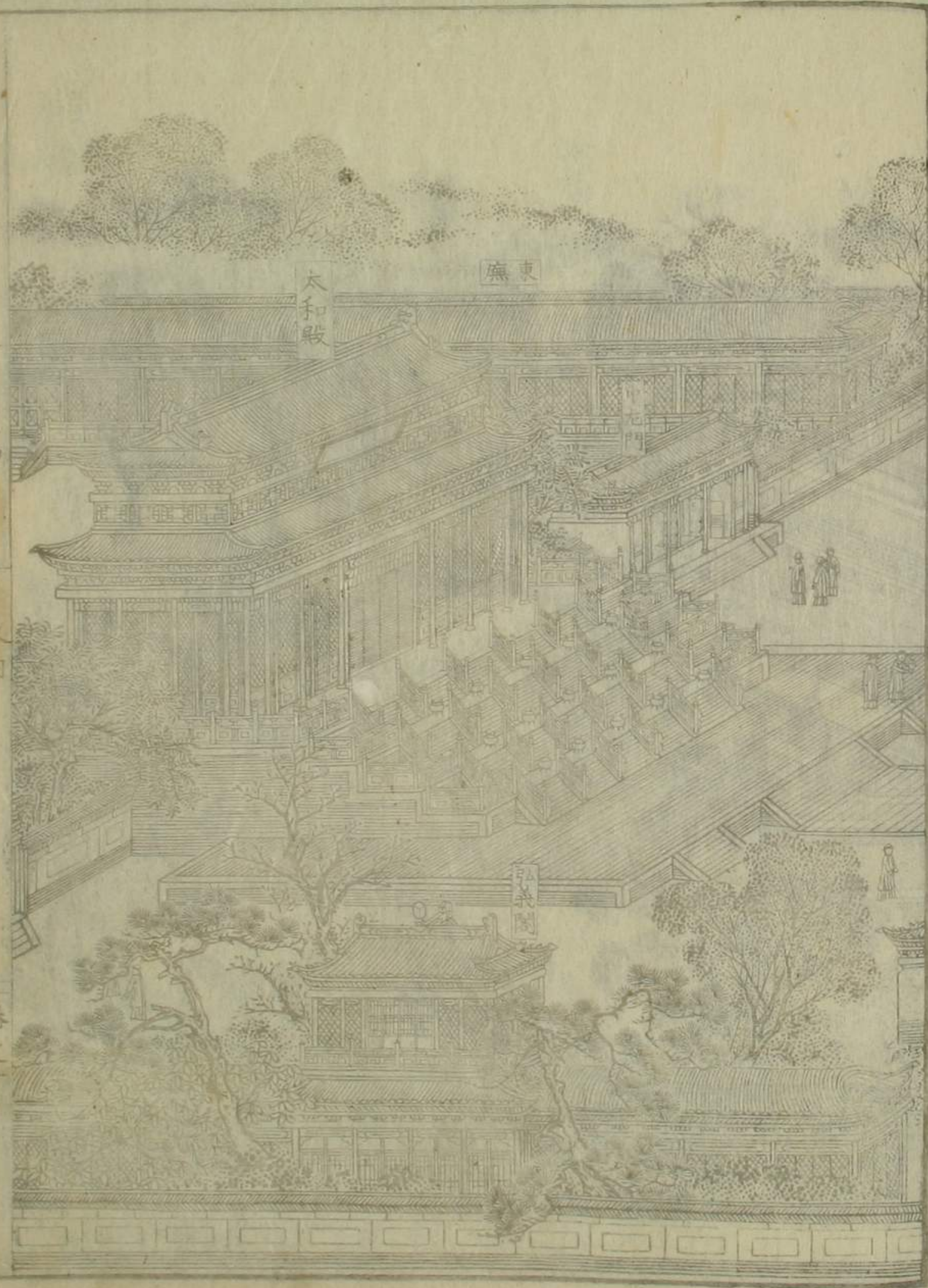
右毛奇齡午門謝恩作

應道書

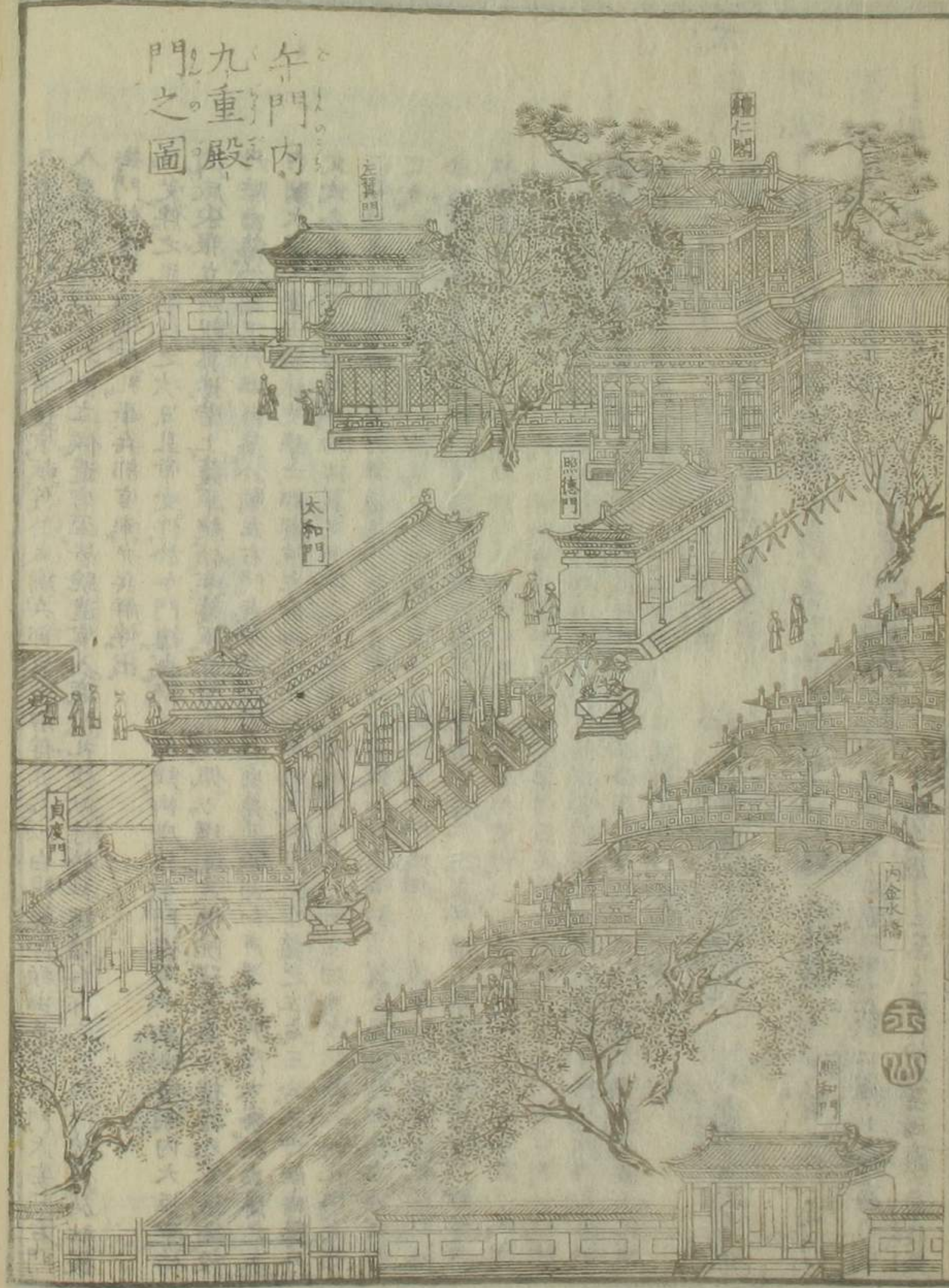


凡獻俘之禮撰日皇帝遣官獻俘於太廟兵部官解俘弁兵以白組繫俘頸由長安右門天安門右門入至太廟街門外北面立候遣官至皆跪遣官入廟行禮復獻俘於社稷壇兵部官仍以俘跪候於社稷街門外遣官詣壇行禮畢兵部官率弁兵解俘出凡受俘之禮獻俘之次日皇帝受俘於午門樓光期工部設御座於午門樓正中至日贊明內大臣率侍衛咸采服立兩觀翼樓階上護軍統領率護軍立階下均佩刀環衛武備院張黃蓋於樓檐外奎儀衛設丹陛鹵簿於闕下丹墀鹵簿於闕左右門南金鼓鏡歌於鹵簿前樂部和聲署設丹陛大樂於鹵簿之末內閣大學士翰林院學士都察院左都御史左副都御史於丹陛鹵簿之左右王公於丹陛鹵簿外文武各官於丹墀鹵簿外均按翼東西序立糾儀御史鴻臚寺官各分班立均與太和殿大朝禮同兵部二部尚書侍郎立於右翼丹墀鹵簿外兵部官率解俘將校押俘立於右翼金鼓外刑部官立於兵部之次禮部堂官詣乾清門詣駕皇帝御龍袍交服乘輿出宮午門鳴鐘前引後扈如常儀駕至太和門鳴金鼓奏鏡歌皇帝陛午門樓至檐前降輿陞座樂止宣旨大臣二人立於階下鴻臚官贊排班引解俘將校進至御道西面立樂作將校行三跪九叩禮畢退立原位受俘兵部官率將校引俘至金鼓下跪兵刑二部堂官均趨至午門前兵部尚書跪奏平定某地所獲俘囚其等謹獻闕下宣旨大臣宣制曰所獻俘文刑部刑部堂官跪領旨兵部官引俘出金鼓外交刑部官刑部官跪行出施行若得旨赦俘罪宣制釋縛俘叩首畢將校引由天安門右門出丹陛大樂作王公百官各就拜位行三跪九叩禮畢樂止禮成鳴金鼓奏鏡歌皇帝乘輿還宮王以下各官皆退是日賜解俘弁兵銀幣各有差

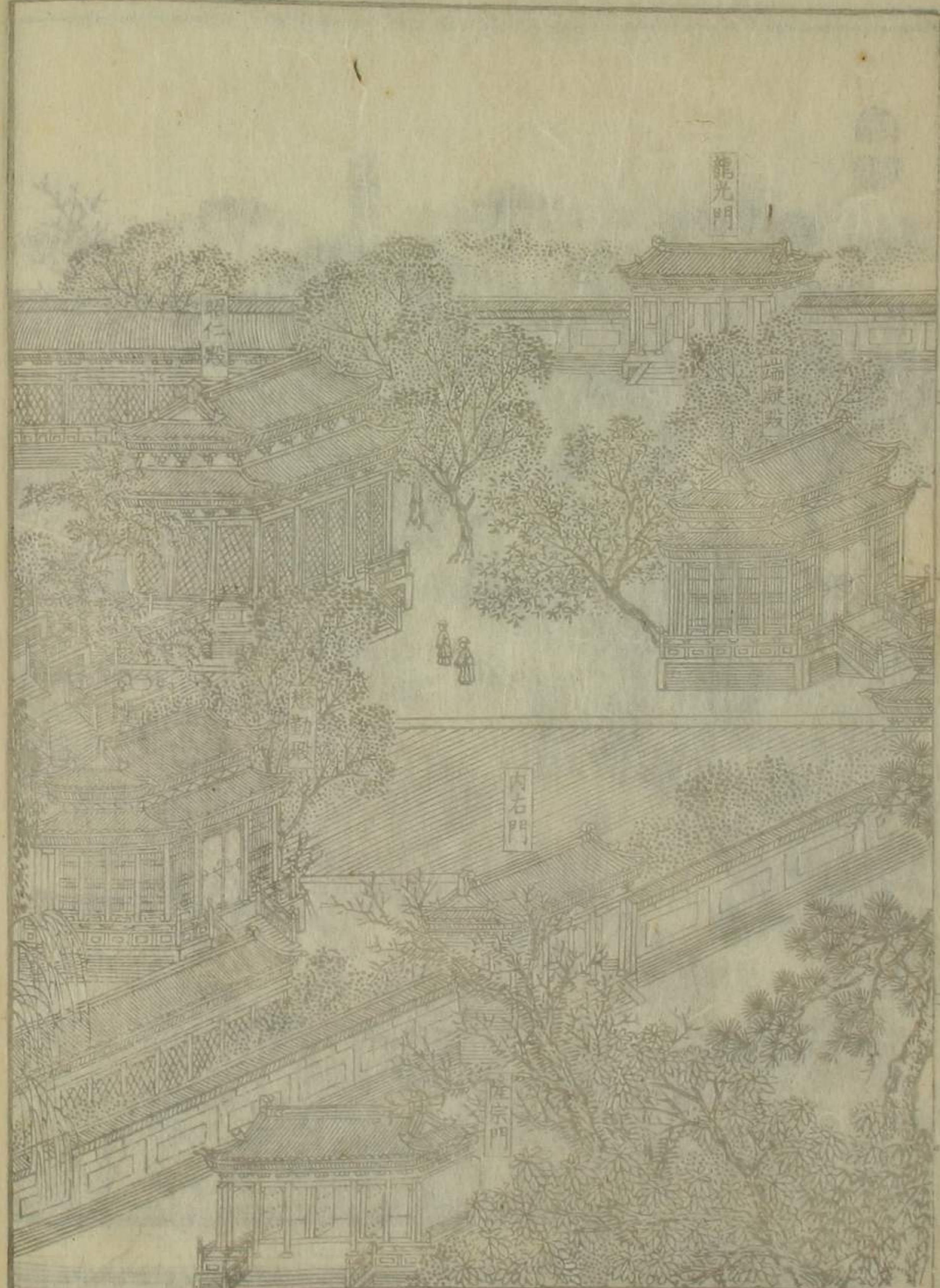
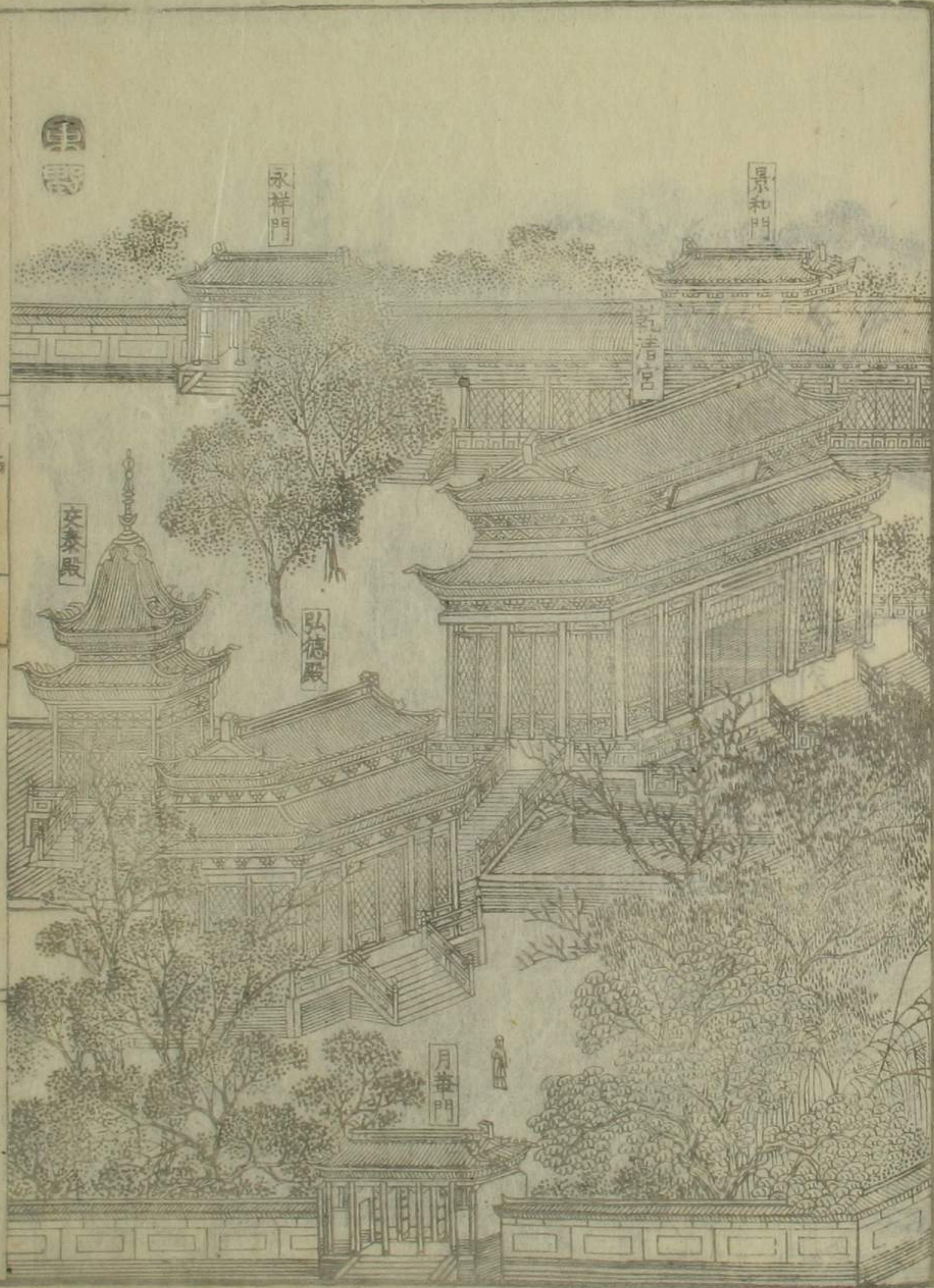
太和門 午門之後西廡乃小殿乃九間三門基高石殿於後之階三出九右之階三出

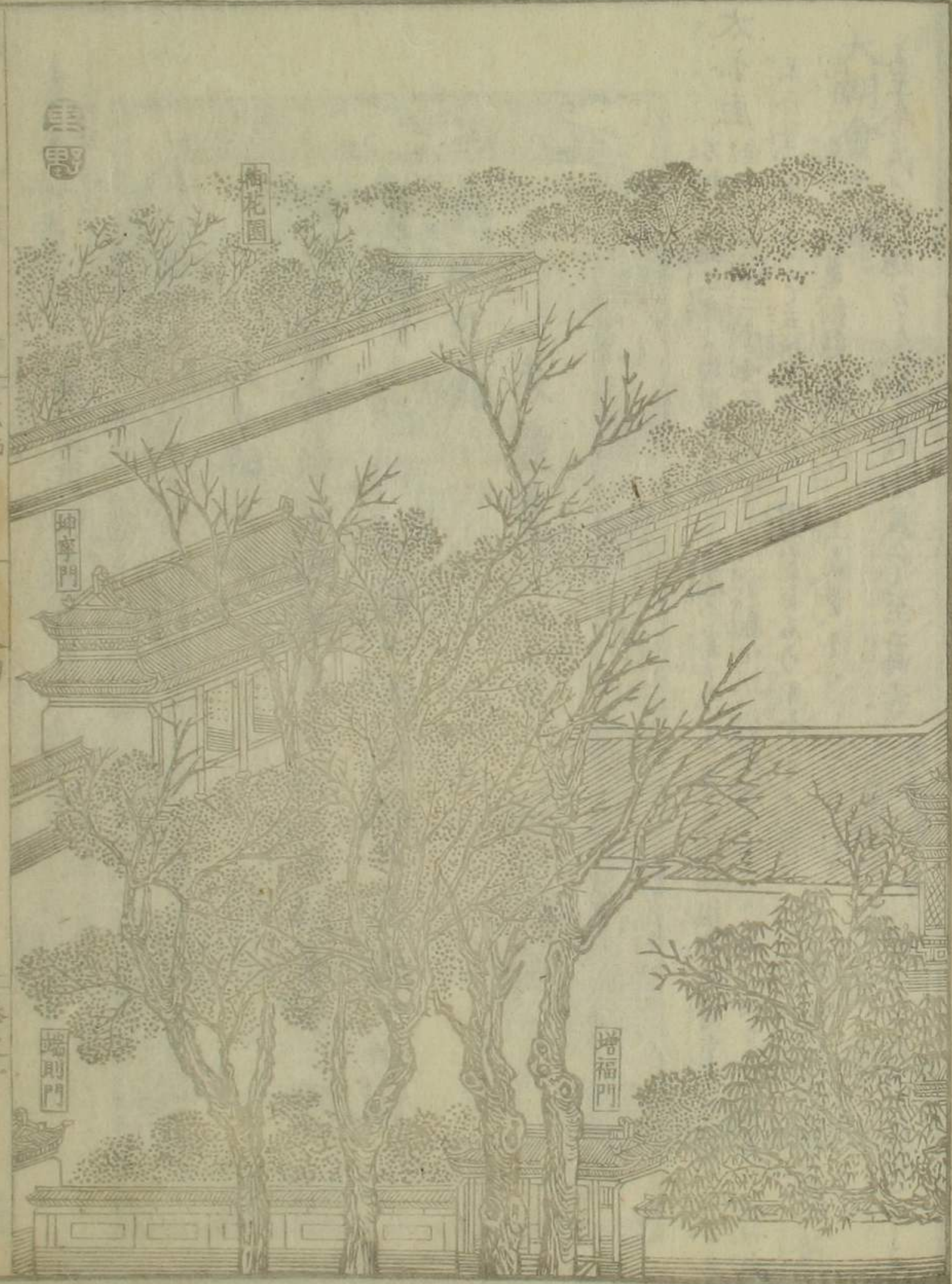
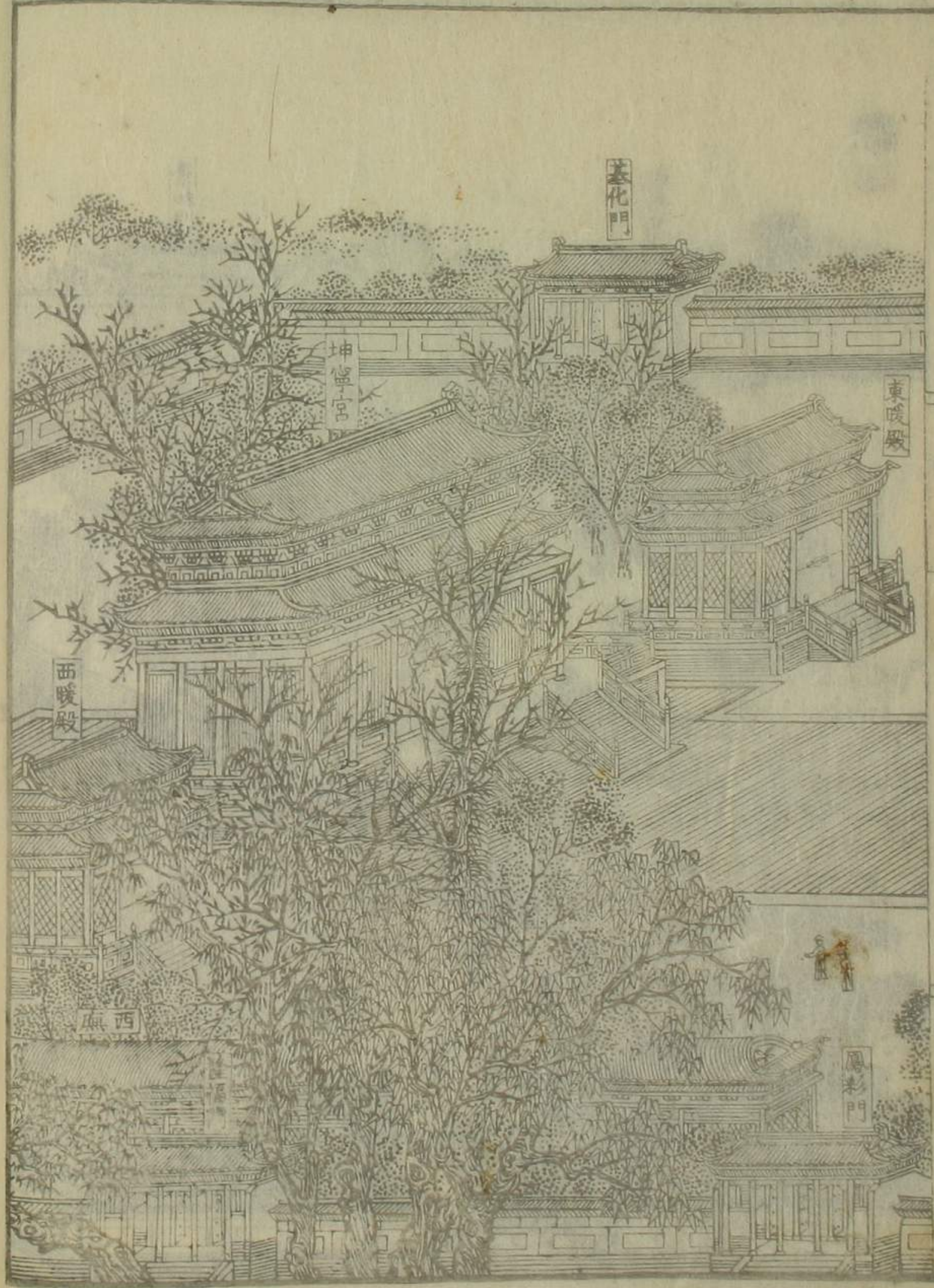


午門內
九重殿
之圖









夜流茶の二庫（北東）、庶の北東西各門あり、東廡（北東）、西廡（北西）、南廡（南）、北廡（北）、各五間あり、

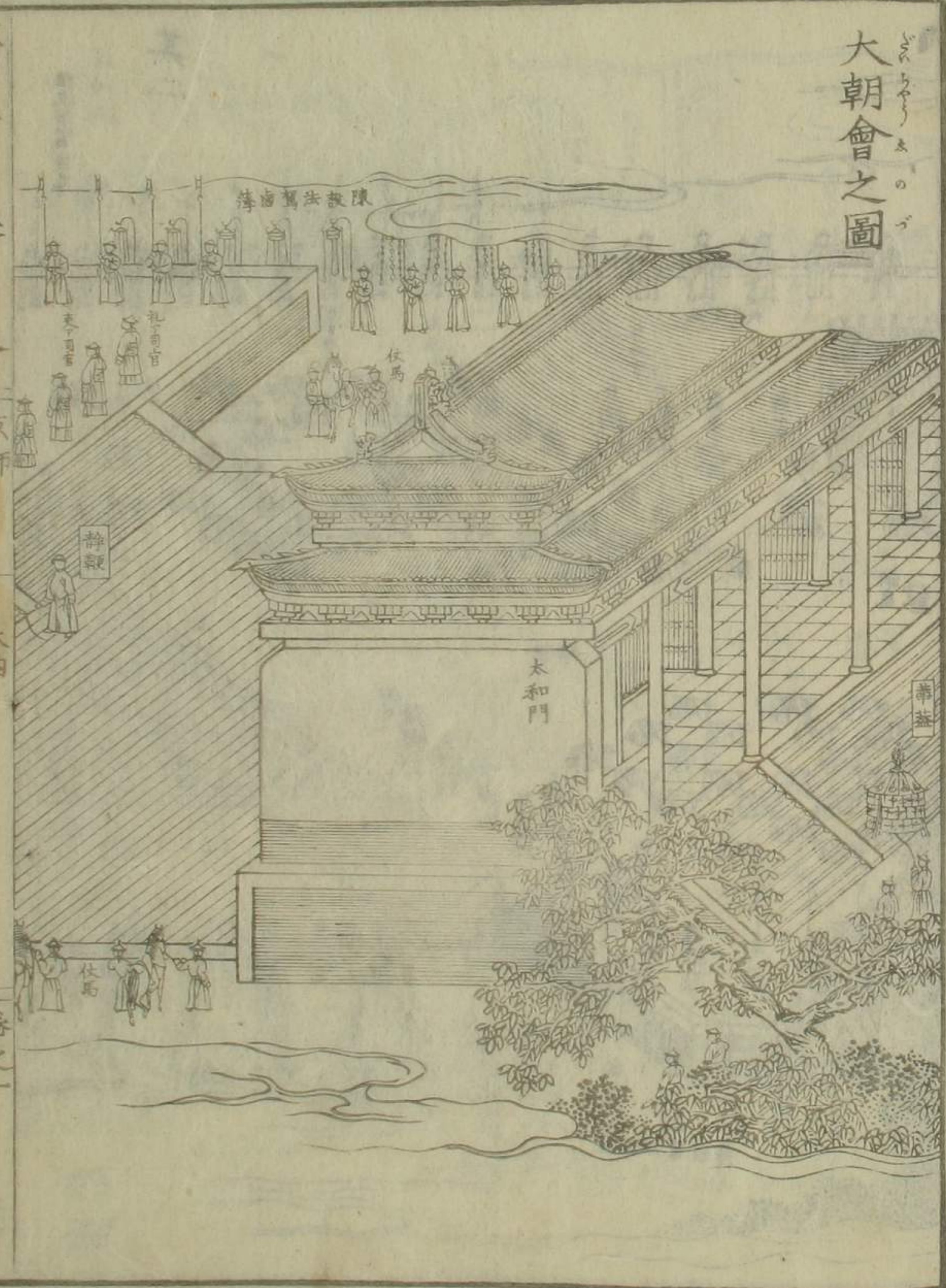
元日賜太和門
垂衣逢盛際
輯玉盡來庭
白醴三光酒
青歸一葉
黃新羊
恩較渥
昨日醉初醒
九奏鈞天曲
風飄次第聽

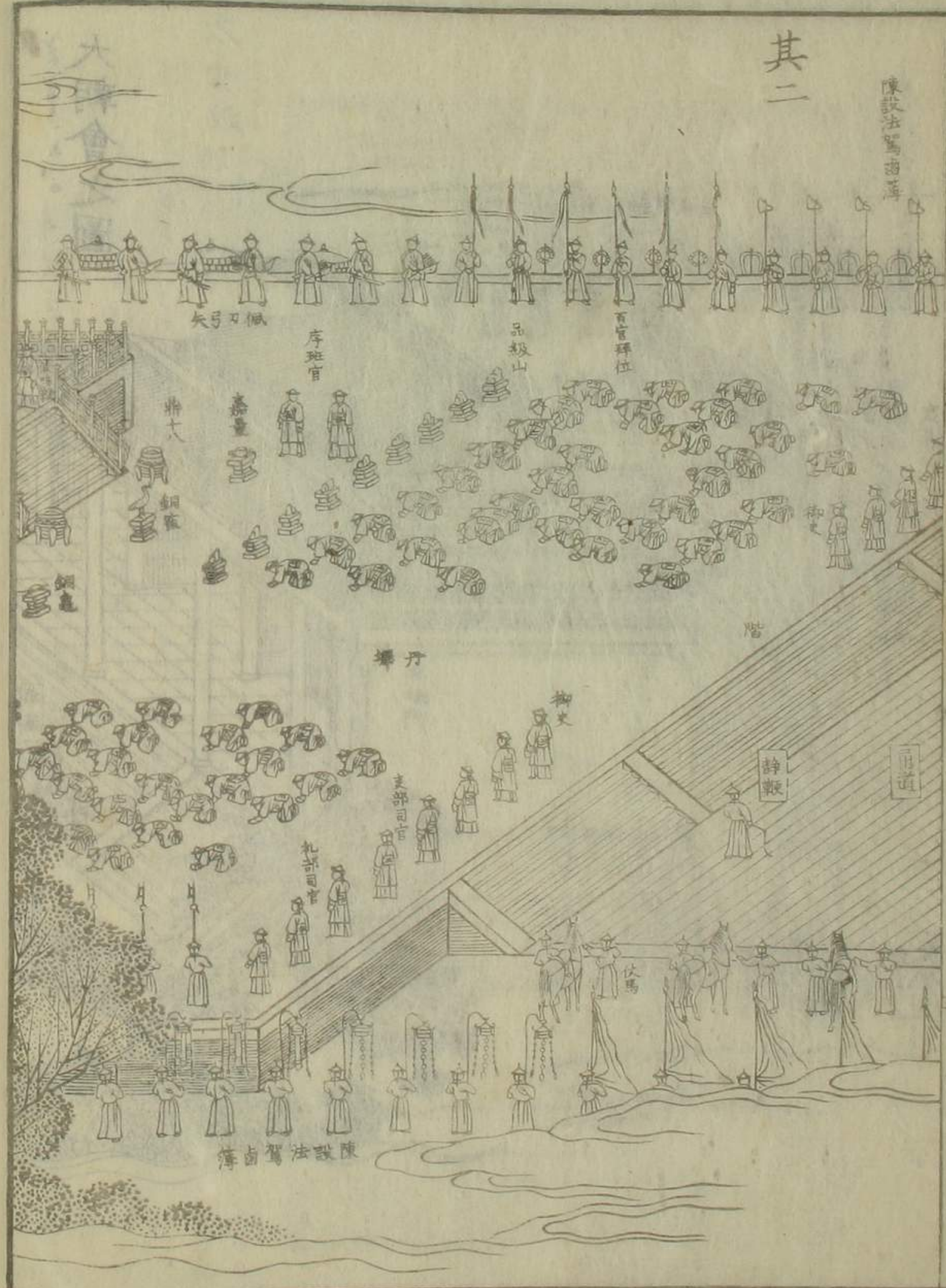
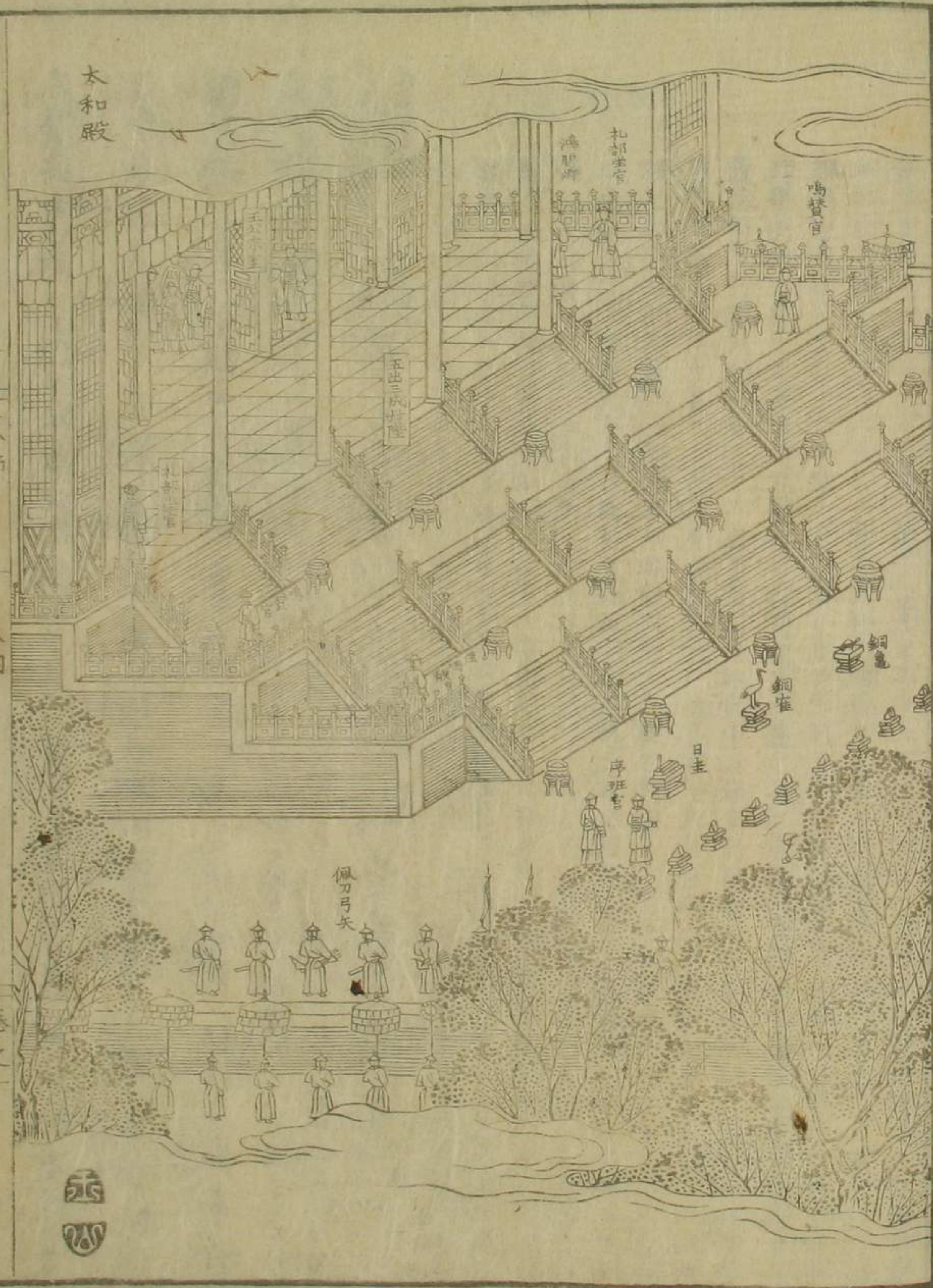
朱彝尊

拙古圖

太和殿 右和門の北正中、南面あり、殿方、基の高二十一丈、廣二十一間、椽八間、檣重りて、脊の上方、
垂衣逢盛際、輯玉盡來庭、白醴三光酒、青歸一葉、黃新羊、恩較渥、昨日醉初醒、九奏鈞天曲、風飄次第聽、
朱丹、三殿を以て五所あり、環以白石の圍を合せ、階の隆、
建極綏猷の額、乾隆
皇帝の御題あり、每歲元旦、冬至、萬壽、
萬壽節と云、
乃大節及び、
中

大朝會之圖





大慶典ある時天子此殿より出御ありて賀を受給ふ其外大朝會燕饗
 まゝ將命して師と出く或軒に臨んで士を策し或百僚に位
 階と授け恩を謝する等此事殿に御して執符ひ給ふ殿に丹
 陛の文武官後を引ふ所なり
此殿に御して山の形を仰ぐ正後九品以上は丹陛を駕東西各十八と二符より百官を引ふ所なり

凡大朝之礼元日長至次日萬壽聖節皆豫月由部疏請御殿文賀得旨先期戒百執事至日五鼓登儀
 使率官校至太和殿前陳法駕鹵簿樂部率和吉署陳樂懸儀制司郎中奉在京王公百官賀表入殿內
 陳左極表案內閣中書奉筆硯陳右極案上皆退質明王公登文武一二品官從皇帝朝於皇太后宮三
 品以下官會午門闕下均行禮畢鴻臚官引王公暨一二品官入右翼門引三品以下官入左右掖門東
 班由昭德門西班由貞度門外國使臣從西班咸入就位立禮部堂官二人詣乾清門奏請御殿午門鳴
 鐘鼓領侍衛內大臣二人率豹尾班執槍侍衛十人佩刀侍衛十人立於乾清門外禮部堂官二人立於
 乾清門階下前引大臣十人立於太和殿後階下祇疏導引皇帝乘輿出乾清門後扈內大臣二人及御
 前乾清門侍衛從禮部堂官二人恭導由保和殿御中和殿座侍班導從官於殿前行三跪九叩禮不贊
 禮畢侍班官趨出各就班位立駕與禮部堂官二人暨十大臣前導後扈如初中和韶樂作皇帝御太和
 殿陞宝座導從官各就位立樂止登儀衛官進至中階之右三傳鳴鞭階下三鳴鞭退復位鳴贊官贊排
 班丹陛大樂作鴻臚官引王公百官各就班位班齊贊進殿進贊跪眾跪贊宣表宣表官入殿左門請表
 案前奉表出大學士二人同至殿檐下宣表官正中北面跪大學士二人左右跪展表樂暫止宣表官宣
 殿の左右の各門あり
殿の後東西兩廡あり

建極綏猷

銅鶴銅龜寶鼎品級山之圖



寶鼎 品級山
 銅鶴 銅龜

訖奉表還於案復位立樂作鳴贊官贊叩興王公百官行三跪九叩禮畢樂止引退復位立次引外國使
 臣就拜位樂作贊跪叩興各行三跪九叩禮畢樂止引退復位立賜群臣坐諸王公由殿左右門入大學
 士由殿左門入就位內大臣等各就位立均跪行一叩禮坐賜王公以下文官三品武官二品以上暨
 外國使臣茶受茶及坐飲畢皆行一叩禮登儀衛官傳鳴鞭如初眾皆興階下三鳴鞭駕與中和韶樂作
 還官樂止鴻臚官引王公百官各以次退
 ○燕饗之礼及臨軒策士百僚除授謝恩等之礼以繁略之

中和殿の北正中の南面の殿なり。後横香三間方檐圓頂。乾隆帝御題の額あり。乾隆帝御題の額あり。乾隆帝御題の額あり。乾隆帝御題の額あり。乾隆帝御題の額あり。

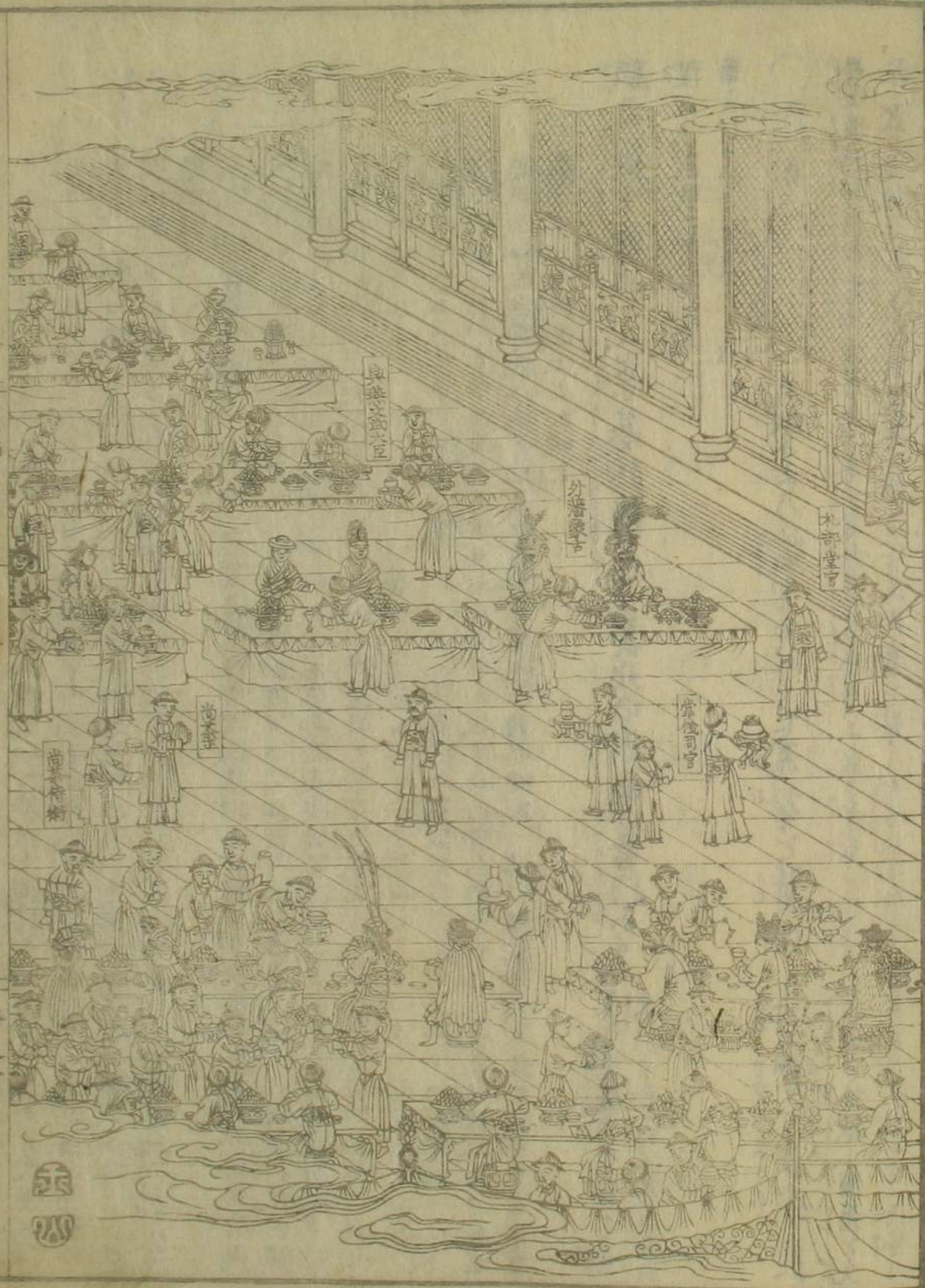
凡耕藉之礼。置藉田於南郊。先農壇之東南。中為帝藉。臺於藉田北。為皇帝觀耕之位。歲仲春吉亥。皇帝躬耕。於帝藉。豫期由部奏請。命王三人、卿九人、從耕。鴻臚寺豫於帝藉。兩旁東西從耕位。立表。以識前期。一日。遣官祗告。奉先殿。如常儀。是日。順天府尹設二案於太和殿東檐下。以龍亭三、宋亭四。陳設耕具。皇帝躬耕。耒耜及鞭皆飾以黃布。嘉種以稻。從耕三。王九卿布種。以麥。穀菽黍各貯。青箱。由長安左門入。至午門外。亭止。府屬官恭奉入左門。至太和殿東檐。次第陳於案。皇帝御中和殿。閱祭先農。祝版。禮畢。保和殿戶部官舉策入中和殿。陳於殿正中。鞭耒案在前。種箱案在後。戶部禮部尚書侍郎率屬立中和殿丹陛之南。重行北上。均西面。禮部尚書一人至保和殿。請駕。皇帝御中和殿。閱耕具。畢。奏禮成。乘輿還宮。玉牒告成之礼。畢此。

保和殿の後正中南向の殿なり。殿の廣九間。深三三乃。殿の左右各門あり。乾隆帝御題の額あり。乾隆帝御題の額あり。乾隆帝御題の額あり。乾隆帝御題の額あり。乾隆帝御題の額あり。

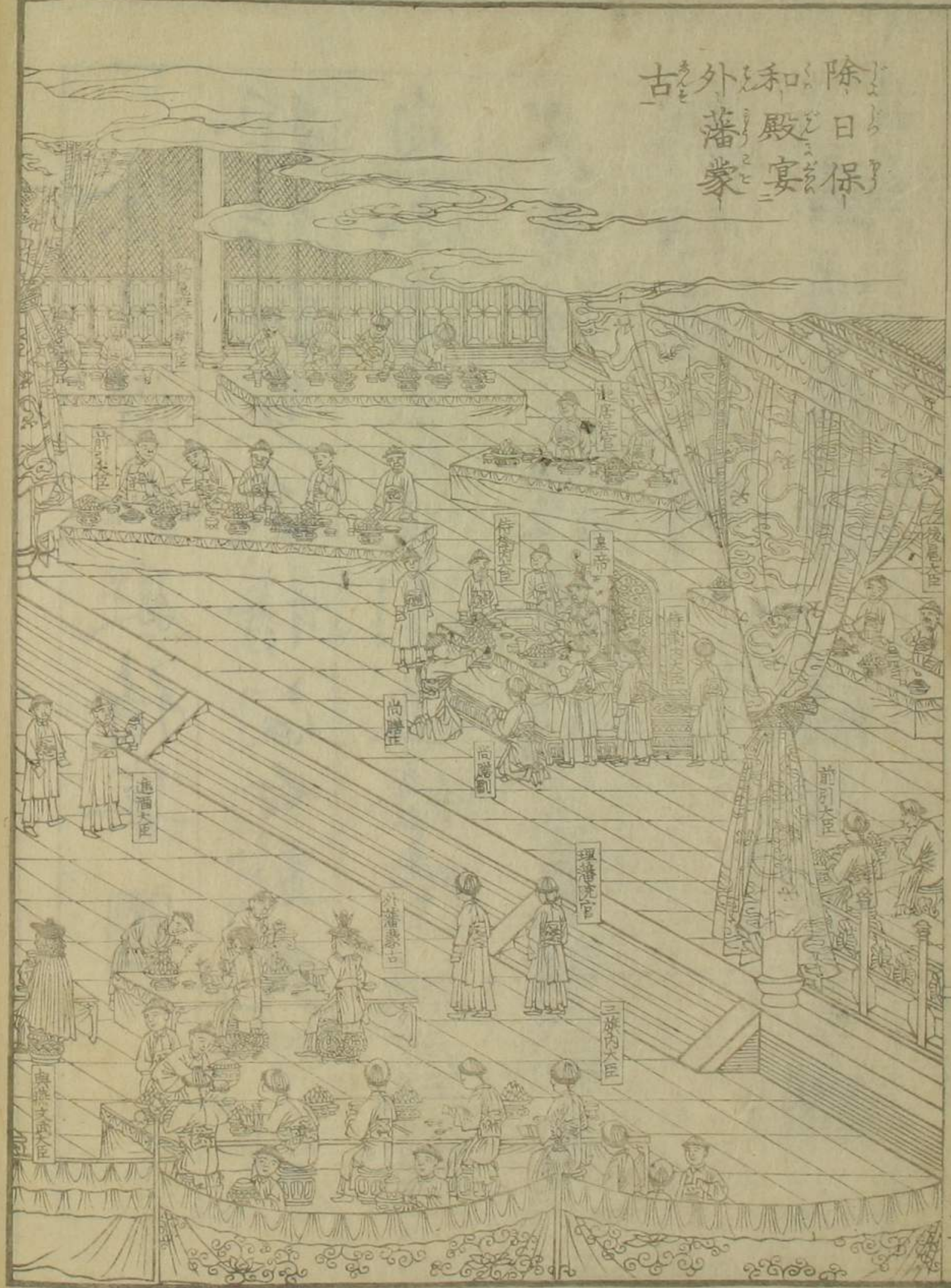
除日保和殿侍宴

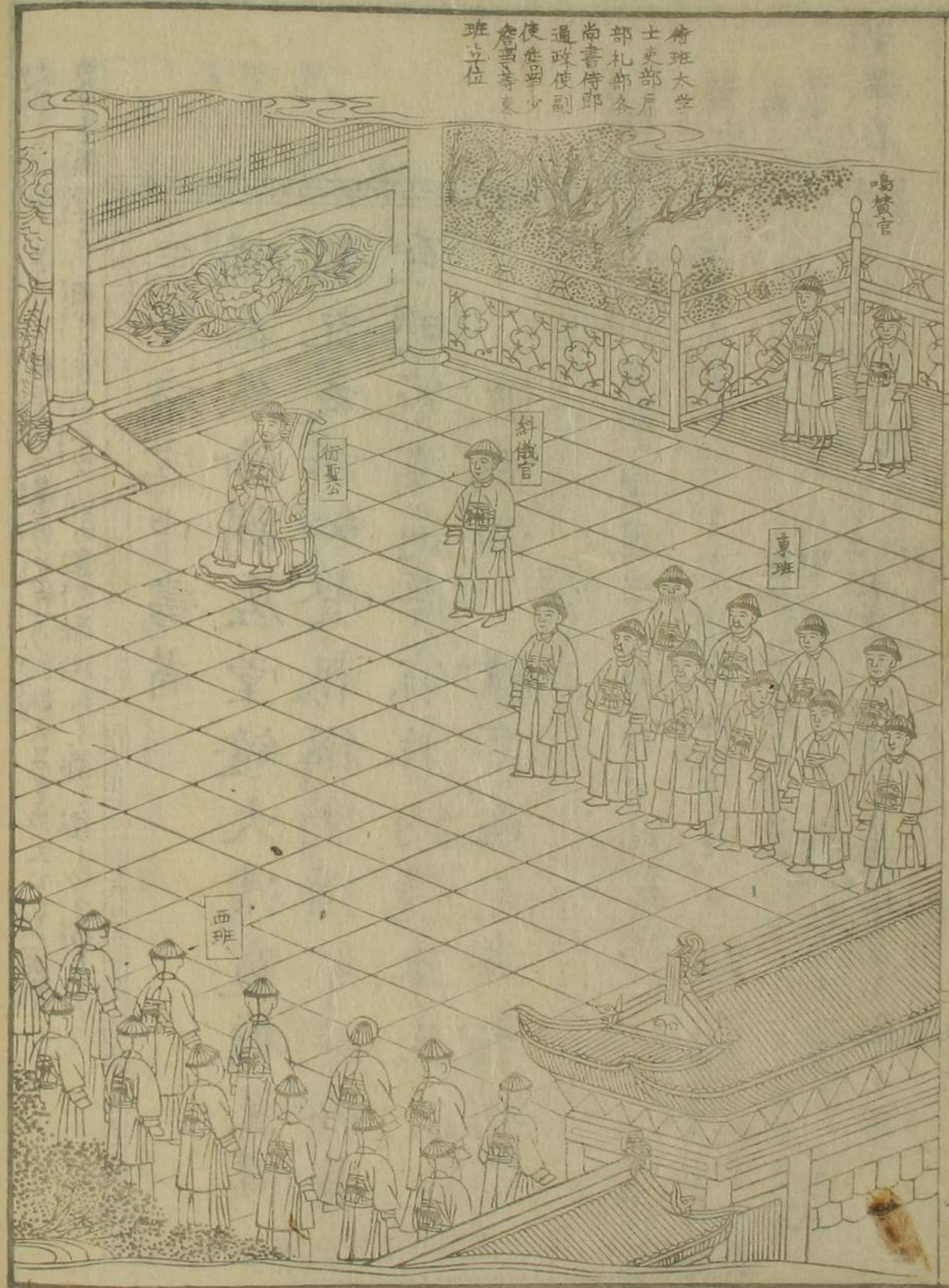
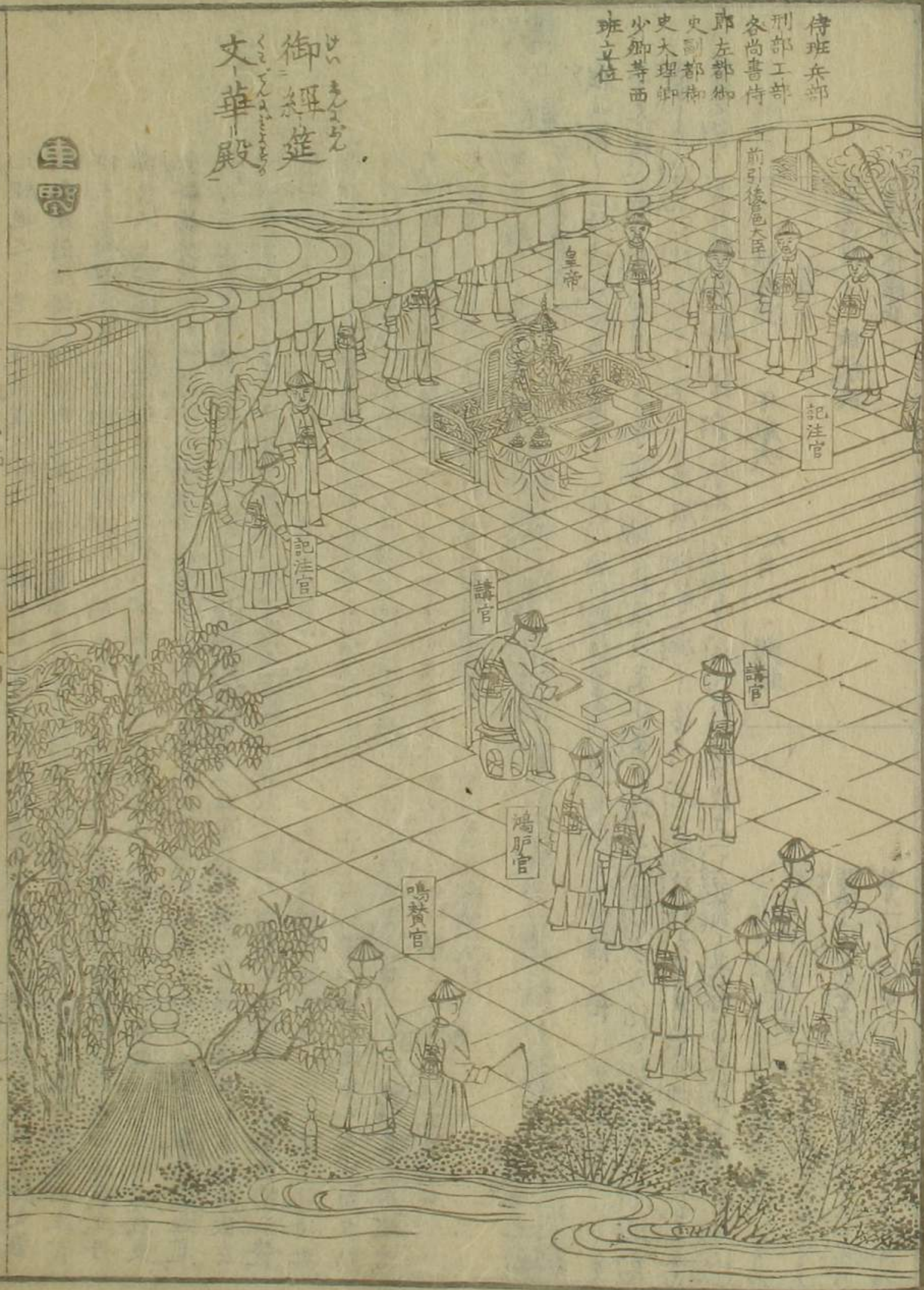
撰結純魚笏樽白獸先呈純
向系隊密生潤爐壚紫路頻除
夕青澄異往年雅啻頌耕會
猶侍至人前
右生壽尊 梅屋居士書

唐王爺廟會 京師 大内 卷之一



除日保
和殿宴
外蒙
古藩





皇紀高祖漢者推國器笑羽憲理書粗具八川賦可班彌
 但新向奉轉藝四十一卷音語韻關備防沸覽羅門二七
 貫一切向時愚乃思血用體橫施三朝史鈔論辭卷二四
 惜明火斡林樞命譯書契皇朝命數紀綱卷華領圭訓庫
 魏與諸祖憲屬基續聖世自兩而成來鈔綱綱而德詞臣所
 專隸經史義游音史編考紀事者尚窮幹支注注版程貢綜
 博向情而曉如實禮對二二二二二二二二二二二二二二二
 二百親儀職輝七檢甄價吟十二警隊時形模黏圍循仰置
 四警詠仄空慧物括開閉經上宗韶聲派上蕙卯義小臣目
 耕乃計惱挈赦苛請莊疆舌福勝陸苦愈疫偏腐否向經依
 則虞漢志巧生奇向多晒矣一小詩粵從步環嶽墳典廟中
 淵豈妹高麗重巒語己經歲爭如向敬生五百應廷詩當茲
 贊憤羈可嗟感噫開口忽翻語如卷茶時昭雖漸識上森
 亦古性體味環瞻同輩流幾夕誦精意惟業雖於勤不於
 而司明昌弘而臨延福貢物傳何昔履系廷載筆音勤記上
 近義軒國民齋官志信 又注師韓翃書篇 華帝會圖

兵長元云鳥思藏苑頃從天竺譯來即唐古咸字也元初用唐古咸字史名異吾兒後師其意製為蒙古

本朝國書以二合三合成音典蒙古同今經館先以蒙古譯唐古咸後以清文譯蒙古其源流可見此詩
 敘述頗明故錄于清字經館之後

○器四庫 尚衣監り 咸安宮 器四庫 八旗右臣の子弟教習肄業の如也

○箭子河 咸安宮の西北より東南へ流るる内金水橋 三通館 箭子河の東 方畧館

○回子館學 右翼門の外 緬子館學 右翼門の外 職司協理の額の雍正

○内務府署 西華門の内 廣儲司署 西華門の内

帝の宸翰をり又順治帝宮中と嚴禁され鐵牌あり凡内府一切の事務

を掌す三院と隸し七司此は廣儲司 奉宸苑或儀院工部院と三院とも廣儲司會計司掌

奉宸苑苑圃の政と掌す或儀院御用器具兵杖製造の事を掌す上御院雜役の政を掌す廣儲司の

内府奉養の事を掌す會計司内府智頂と掌理し掌儀司内府典儀と掌す都虞司或儀院捕

掌理し勅諭を掌する慶豐司の儀殿を掌する造司の造物を掌する廣儲司署 西華門の内

内酒醴房の南牆 廣儲司署 屬る石根は根衣法茶の六庫と掌す凡内府總匯の處と凡

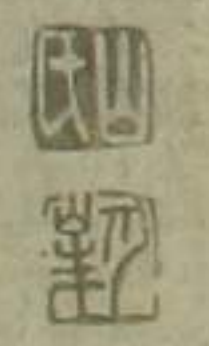
凡内府あり 廣儲司署 屬る石根は根衣法茶の六庫と掌す凡内府總匯の處と凡

由廣二區よりこれを引込み江華、蘇州府、浙江、杭州府、多一織造官を以て龍衣、茶、繒、段、紗、油の屬ひと織
し、兼師、運送、以て外江、西九、江内、に製、造、官、を遣、つ、種、の、次、を、造、つ、り、東、又、送、つ、り、西、内、の、内、に、造、ら
ぬ、九、宮、中、の、花、を、令、銀、器、布、香、紙、ろ、う、け、の、酒、庫、殿、庫、茶、庫、を、以、て、これ、と、需、め、後、後、の、西、宮、の、内、に、造、ら
ぬ、中、で、需、め、あ、る、い、の、宮、殿、等、屬、は、花、と、供、つ、御、供、茶、花、と、上、る、の、茶、庫、又、中、の、王、公、大臣、の、御、書、庫、
外、滿、蒙、右、の、は、紹、復、を、場、を、其、外、中、の、無、禮、御、用、の、蓋、皆、悉、く、廢、儲、司、の、掌、を、是、に、以、て、在、り、
書、處、西華門の内 恭々御製乃詩文法帖の屬と刻以 ○磁器庫 西英殿の南 ○南
薰殿 西英殿の南 歷代帝后の圖像を苑ひ御製の記並詩あり。外堀に勅す
列代帝后の圖像、眼の附内庫は、婦人、乾、清、十、に、奉、工、二、令、一、て、奉、て、裝、潢、を、久、く、振、一、て、南、英、殿、に
ふ、せ、し、む、を、陳、列、義、氏、より、下、地、と、り、六、十、八、冊、と、り、い、の、七、卷、と、み、と、者、三、先、聖、先、賢、の、圖、像
ハ、別、五、の、冊、と、り、洋、又、後、五、次、并、中、し、と、交、り、あ、り、盛、夏、は、曝、し、て、之、を、度、ん、
高、輪、帷、瀆、と、ハ、眼、の、帝、后、の、玉、冊、向、主、部、外、庫、に、移、し、と、分、殿、り、西、室、に、池、流、ん、
西華門 南英殿の北 即此東華城の西門なり。
乾清門 御製乃詩文法帖の屬と刻以 御製乃詩文法帖の屬と刻以、
政と冊と徳と珍と克と右と右と門あり。 老翁を内九門の内 揮下乃東西、
と西と右と右と 東西に周廬あり 東西に周廬あり、
と西と右と右と 内九門の内 内九門の内、
と西と右と右と 侍衛の所 侍衛の所、
と西と右と右と 侍衛の所 侍衛の所、

凡御門聽政之礼先期內閣得旨傳知各部院官至日黎明成集候侍衛傳旨宣入廻魚貫以進皇帝陞
座記注官由西階升翰林科道至西階下成就位立部院奏事官由東階升尚書一人奉疏折旋而西餘
入就位西面跪奏疏者至正中北面進諸黃案前跪奏設於案與少退趨至左極轉入班跪奏其事畢與
少退循東階左降其次各班依序進奏如前儀吏部引見各部院屬官畢退內閣侍讀學士二人升東階
詣案前跪奏奏疏退階階翰林科道暨侍衛皆退大學士學士升自東階以次跪御榻之左西面北上記
注官進立御榻之右滿内閣學士一人奉折本至黃案前北面跪奏每奏一事皇帝降旨大學士學士承
旨訖與由東階降記注官由西階降皇帝還宮皆退。

會館南より其欄柵を周廬
とあり王公漏を侍の右に

入直名趨丹鳳樓 忽驚咫尺覲宸旒 未遮
官扇瞻天近 不敬鄉雲繞 日浮帝德難
名深氣象主 恩蓄意待咨 詠心懷董賈
才何有奏對 誰當第一流
施閩章 召見乾清門 泉州岸城山月峯書



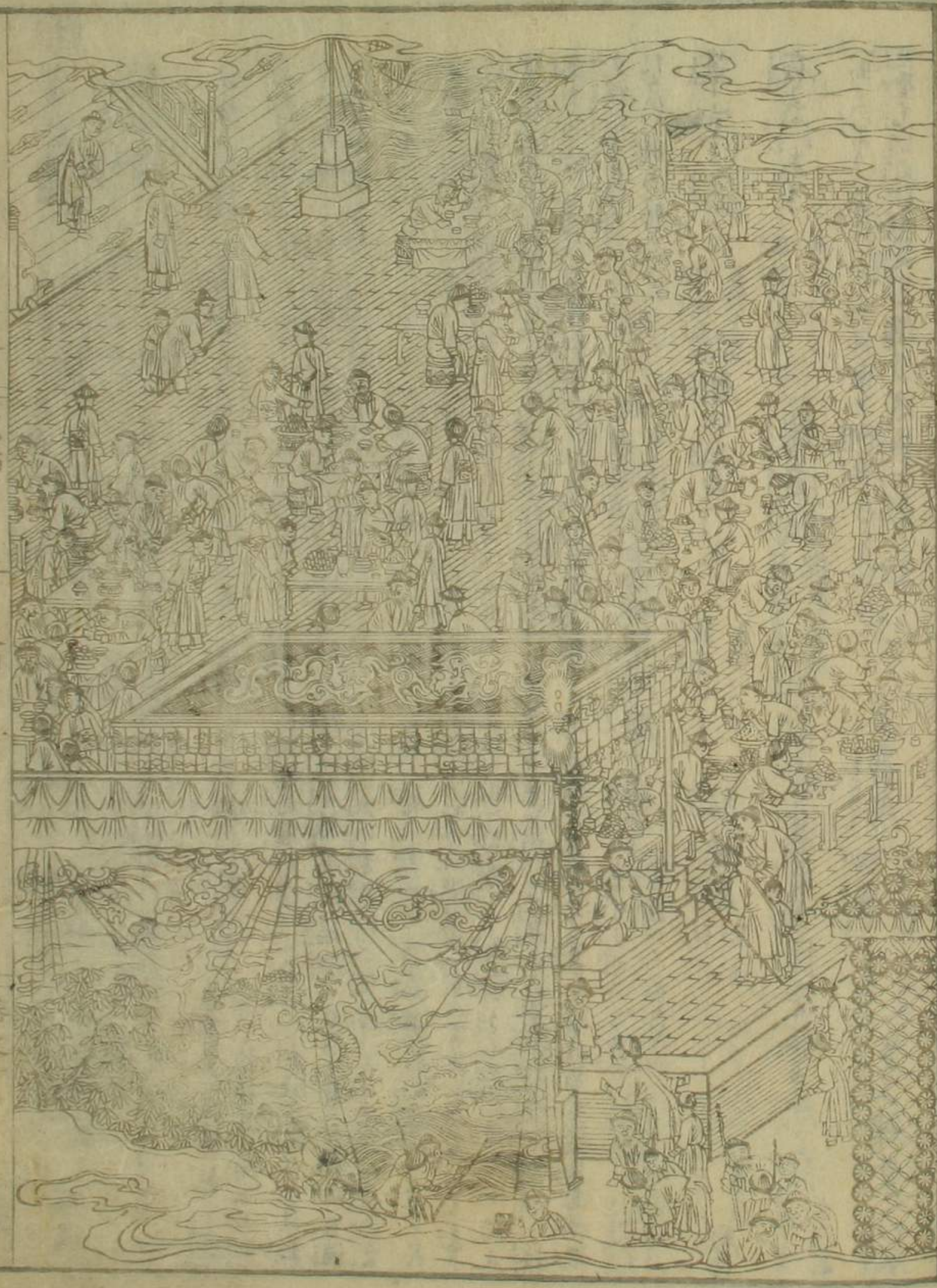
乾清宮
千叟宴



京師

大內

卷之



乾清宮

乾清宮 乾清門の北正中南向の宮なり。殿は九間、楹八間、中二室あり。殿の東階丹陛あり。世祖

順治帝の御書額を正大光明とて入内臣工と召討り。庶僚と引見せり。此宮

は御書額を奉安す。且諸王も入内を賜ふ。入内は於てと。康熙二十一年、特恩千叟

の御書額を奉安す。且諸王も入内を賜ふ。入内は於てと。康熙二十一年、特恩千叟

の御書額を奉安す。且諸王も入内を賜ふ。入内は於てと。康熙二十一年、特恩千叟

の御書額を奉安す。且諸王も入内を賜ふ。入内は於てと。康熙二十一年、特恩千叟

の御書額を奉安す。且諸王も入内を賜ふ。入内は於てと。康熙二十一年、特恩千叟

の御書額を奉安す。且諸王も入内を賜ふ。入内は於てと。康熙二十一年、特恩千叟

の御書額を奉安す。且諸王も入内を賜ふ。入内は於てと。康熙二十一年、特恩千叟

の御書額を奉安す。且諸王も入内を賜ふ。入内は於てと。康熙二十一年、特恩千叟

の御書額を奉安す。且諸王も入内を賜ふ。入内は於てと。康熙二十一年、特恩千叟

の御書額を奉安す。且諸王も入内を賜ふ。入内は於てと。康熙二十一年、特恩千叟

方り ○懋勤殿

懋勤殿 乾清宮の北正中南向の宮なり。殿は九間、楹八間、中二室あり。殿の東階丹陛あり。世祖

南書房

南書房 乾清宮の北正中南向の宮なり。殿は九間、楹八間、中二室あり。殿の東階丹陛あり。世祖

文泰殿

文泰殿 乾清宮の北正中南向の宮なり。殿は九間、楹八間、中二室あり。殿の東階丹陛あり。世祖

大清受命之寶以章皇序

大清受命之寶以章皇序 乾清宮の北正中南向の宮なり。殿は九間、楹八間、中二室あり。殿の東階丹陛あり。世祖

大清嗣天子寶以章繼繩

大清嗣天子寶以章繼繩 乾清宮の北正中南向の宮なり。殿は九間、楹八間、中二室あり。殿の東階丹陛あり。世祖

皇帝之寶以肅法駕

皇帝之寶以肅法駕 乾清宮の北正中南向の宮なり。殿は九間、楹八間、中二室あり。殿の東階丹陛あり。世祖

皇帝尊親之寶以薦徽號

皇帝尊親之寶以薦徽號 乾清宮の北正中南向の宮なり。殿は九間、楹八間、中二室あり。殿の東階丹陛あり。世祖

皇帝行寶以頒錫賚

皇帝行寶以頒錫賚 乾清宮の北正中南向の宮なり。殿は九間、楹八間、中二室あり。殿の東階丹陛あり。世祖

天子行寶以冊外寶

天子行寶以冊外寶 乾清宮の北正中南向の宮なり。殿は九間、楹八間、中二室あり。殿の東階丹陛あり。世祖

敬夫勤民之寶以饒觀吏

敬夫勤民之寶以饒觀吏 乾清宮の北正中南向の宮なり。殿は九間、楹八間、中二室あり。殿の東階丹陛あり。世祖

勅命之寶以鈴誥勅

勅命之寶以鈴誥勅 乾清宮の北正中南向の宮なり。殿は九間、楹八間、中二室あり。殿の東階丹陛あり。世祖

命德之寶以獎忠良

命德之寶以獎忠良 乾清宮の北正中南向の宮なり。殿は九間、楹八間、中二室あり。殿の東階丹陛あり。世祖

大清受命之寶



皇帝尊親之寶



天子之寶



表章經史之寶以崇古訓唐玉方四寸七分厚三寸

討罪安民之寶以張征伐唐玉方四寸八分厚二寸

勅正萬邦之寶以誥外國唐玉方三寸八分厚一寸

廣運之寶以謹封識黑玉方六寸厚二寸

巡狩天下之寶以從省方唐玉方四寸八分厚二寸

制馭六師之寶以整戎行黑玉方五寸三分厚一寸

勅正萬邦之寶以誥四方唐玉方四寸一分厚一寸

坤寧宮

交泰殿乃後宮之始也

九間南面

東暖殿之東以永清門

門北與坤寧宮之西

坤寧門

御花園

坤寧門之北有御花園

飲安殿

凝香亭

萬春亭

摘藻堂

絳雪軒

延暉閣

千秋亭

養性齋

永光門

凝香亭

延暉閣

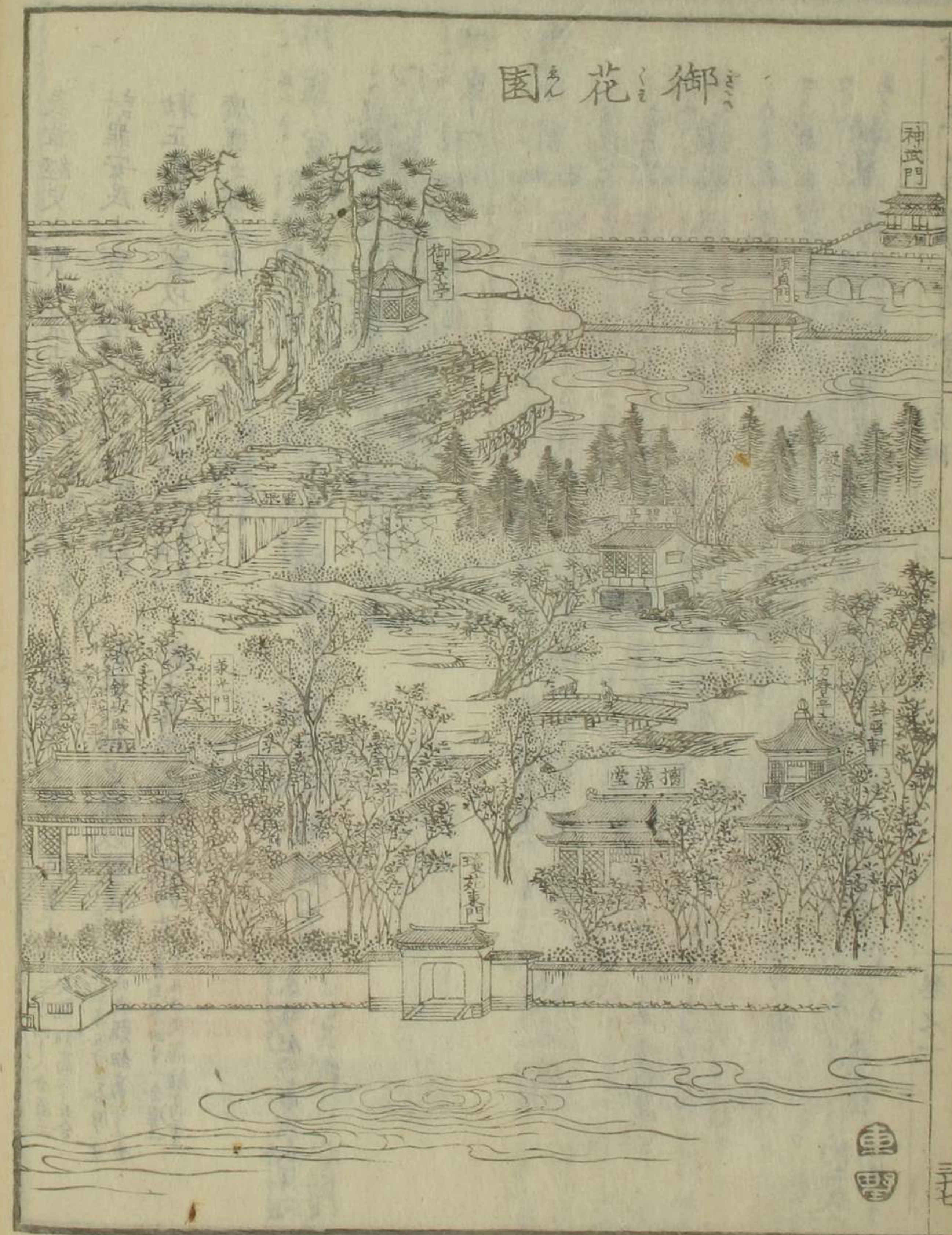
千秋亭

養性齋

永光門



御花之園



て北へ向ふ金堂二つあり龍と延和門あり順貞門御花園の北の門也以上を御花園と稱す

神武門順貞門の後あり 東一長街日蓮門の南あり 景仁宮東一長街あり 東二長街日蓮門の南あり 景陽宮東二長街あり

乾宮日蓮門の南あり 延禧宮東二長街あり 種祥宮日蓮門の南あり 永和宮日蓮門の南あり 東二長街日蓮門の南あり

西一長街月華門の西あり 永壽宮西一長街あり 西二長街南北より直る街也 儲秀宮網坤宮の北あり 西二長街南北より直る街也 咸福宮長春宮の北あり 乾西

内庫房長街の西あり 仁祥門日蓮門の南あり 天宮寶殿小長街の北あり 齋宮仁祥門の南あり 陽曜門西一長街の北あり

乾宮五所乾宮五連あり 毓慶宮乾宮の南あり 敦本殿乾宮の南あり 網坤宮儲秀宮の西あり 陽曜門西一長街の北あり

西一長街月華門の西あり 永壽宮西一長街あり 西二長街南北より直る街也 儲秀宮網坤宮の北あり 西二長街南北より直る街也 咸福宮長春宮の北あり 乾西

西二長街の北より西あり五所 其北より西あり五所



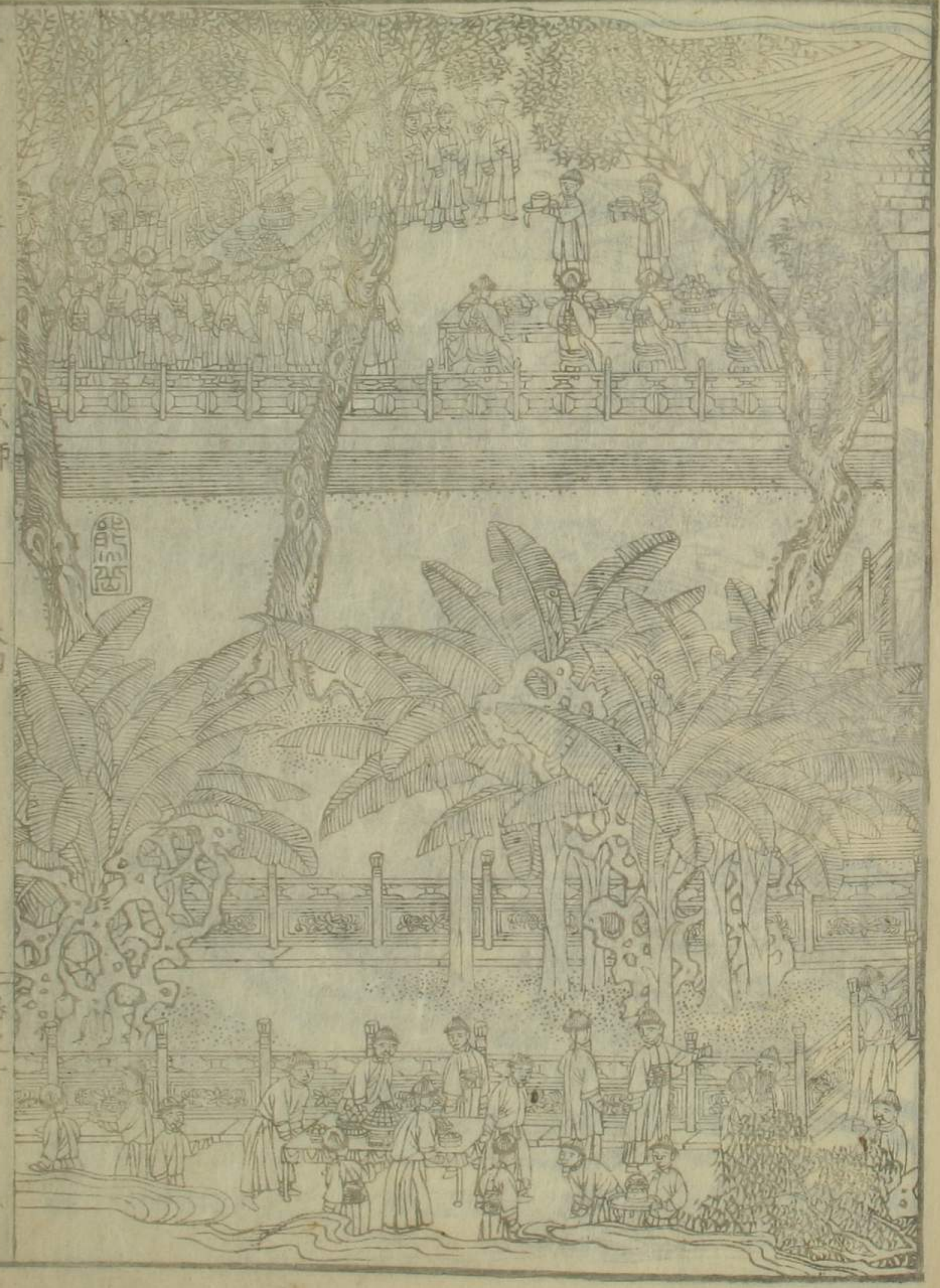
抑、威儀維德之隅人亦、有言靡哲不愚、庶人之愚亦、職維疾哲人之愚亦、維斯戾

右衛武公所作抑之詩十二章載在太雅蕩之什今其抽出其第一章以著抑之義矣若其詳則就本書而觀之可也而御製抑齋之記以繫略之

元和御製正月十日小宴重華宮
 宋大子士也進請五先類
 重華宮小宴圖
 有西之真幸在 頤風雅亦以純重於
 占其榮松鶴之出題 年其整正安何忘
 河瑞於形之遠
 沈德法
 竹宮畫世景錄
 圖



重華宮小宴圖

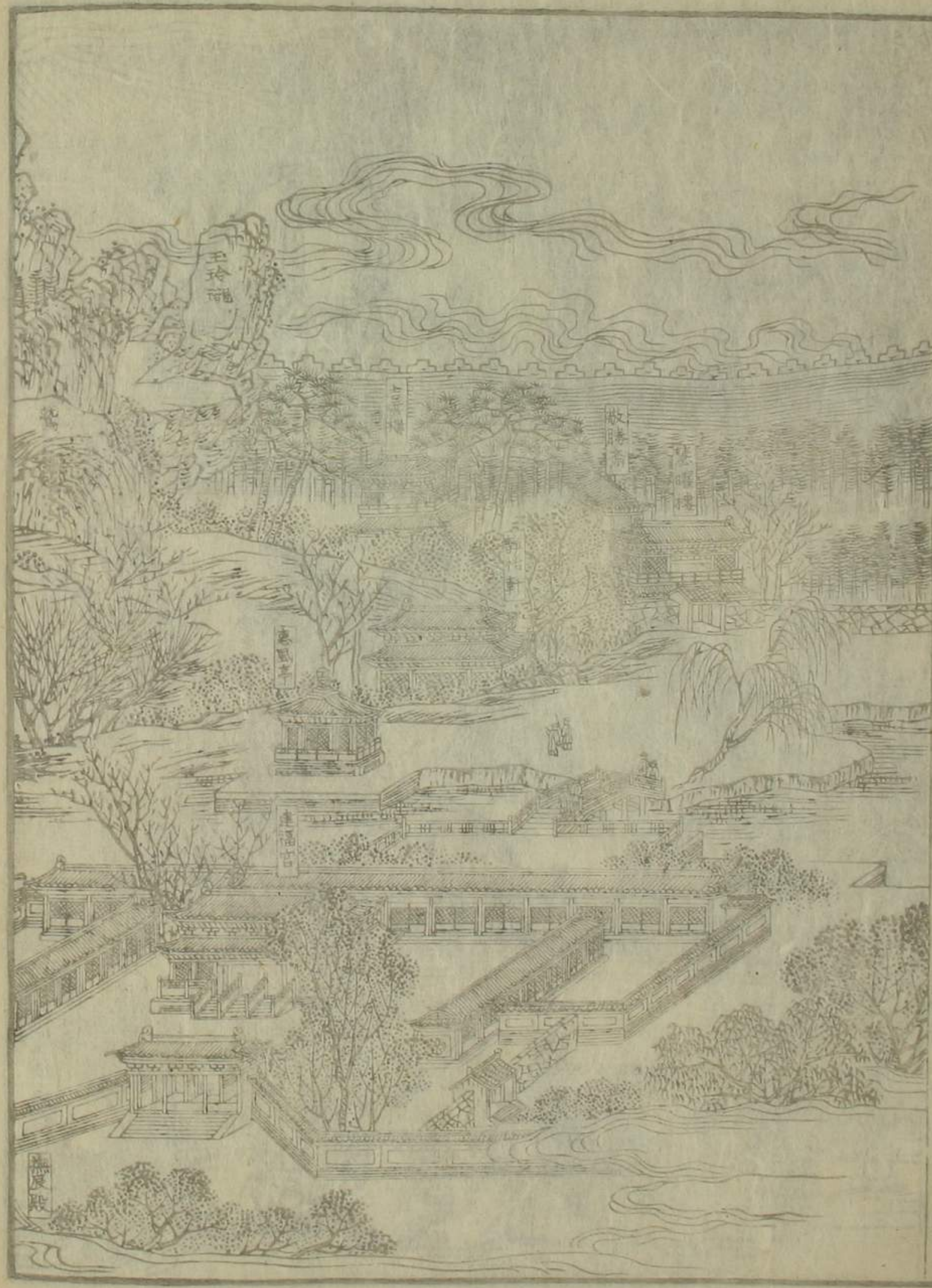
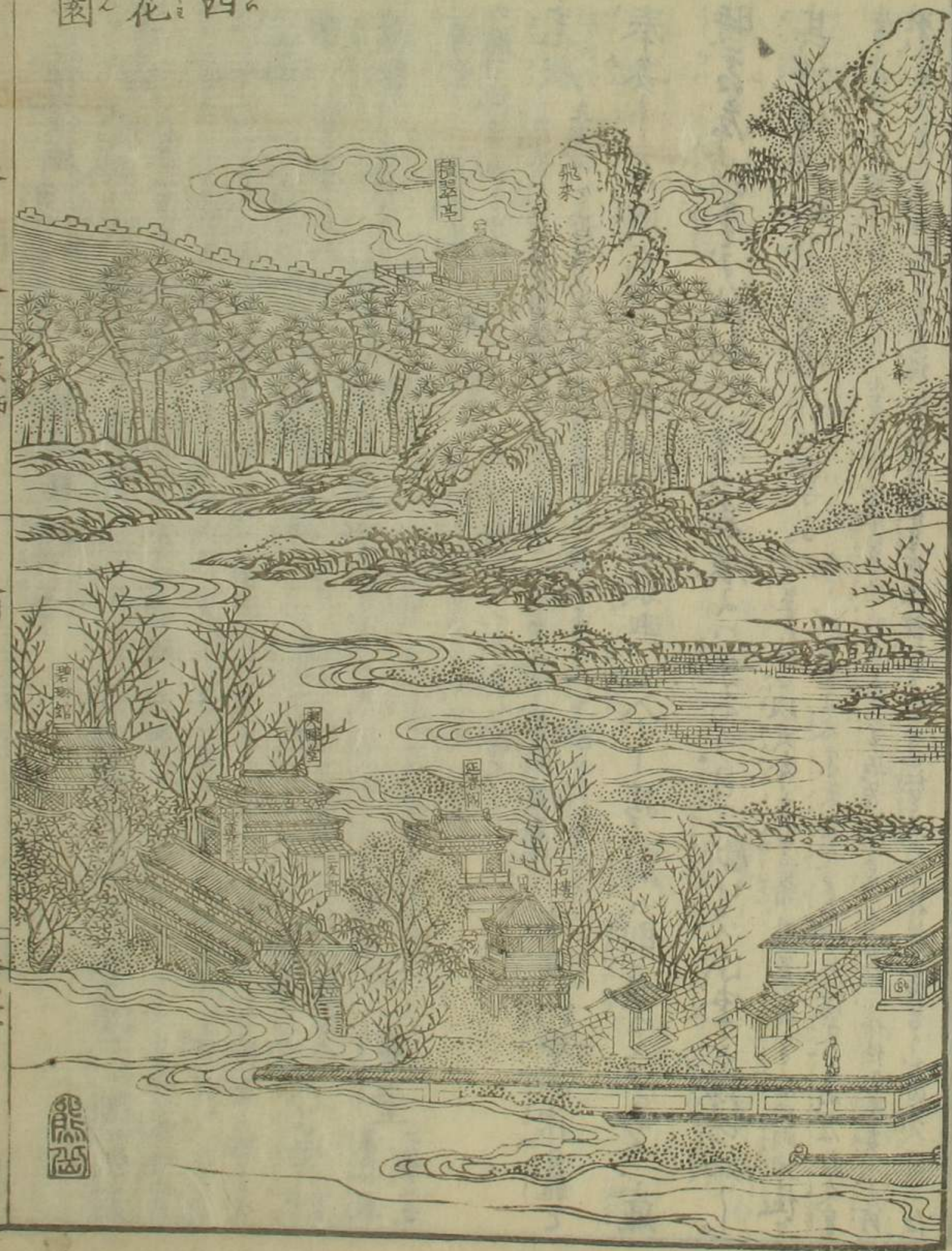


京師

大內

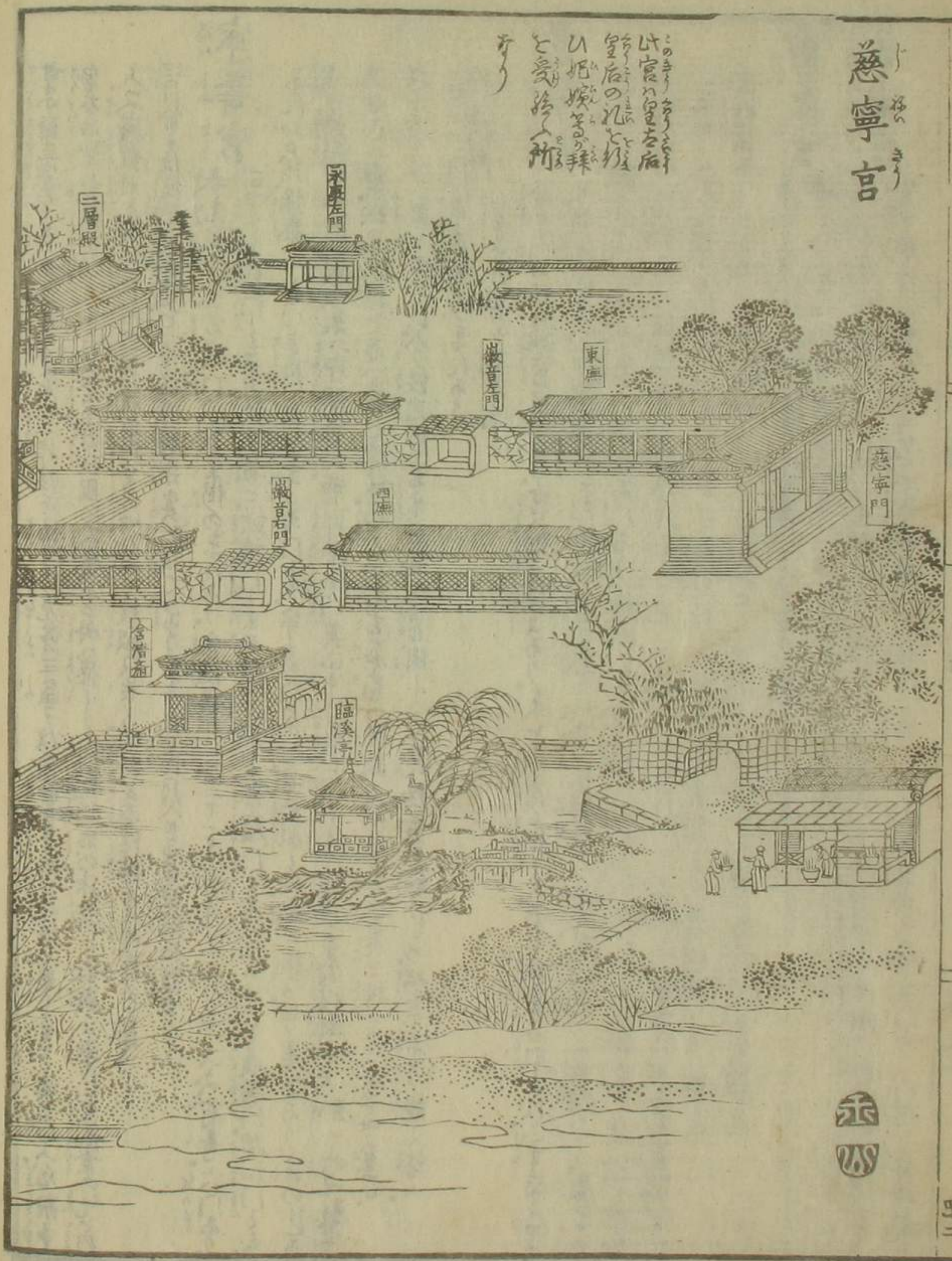
卷之一

西園之花園



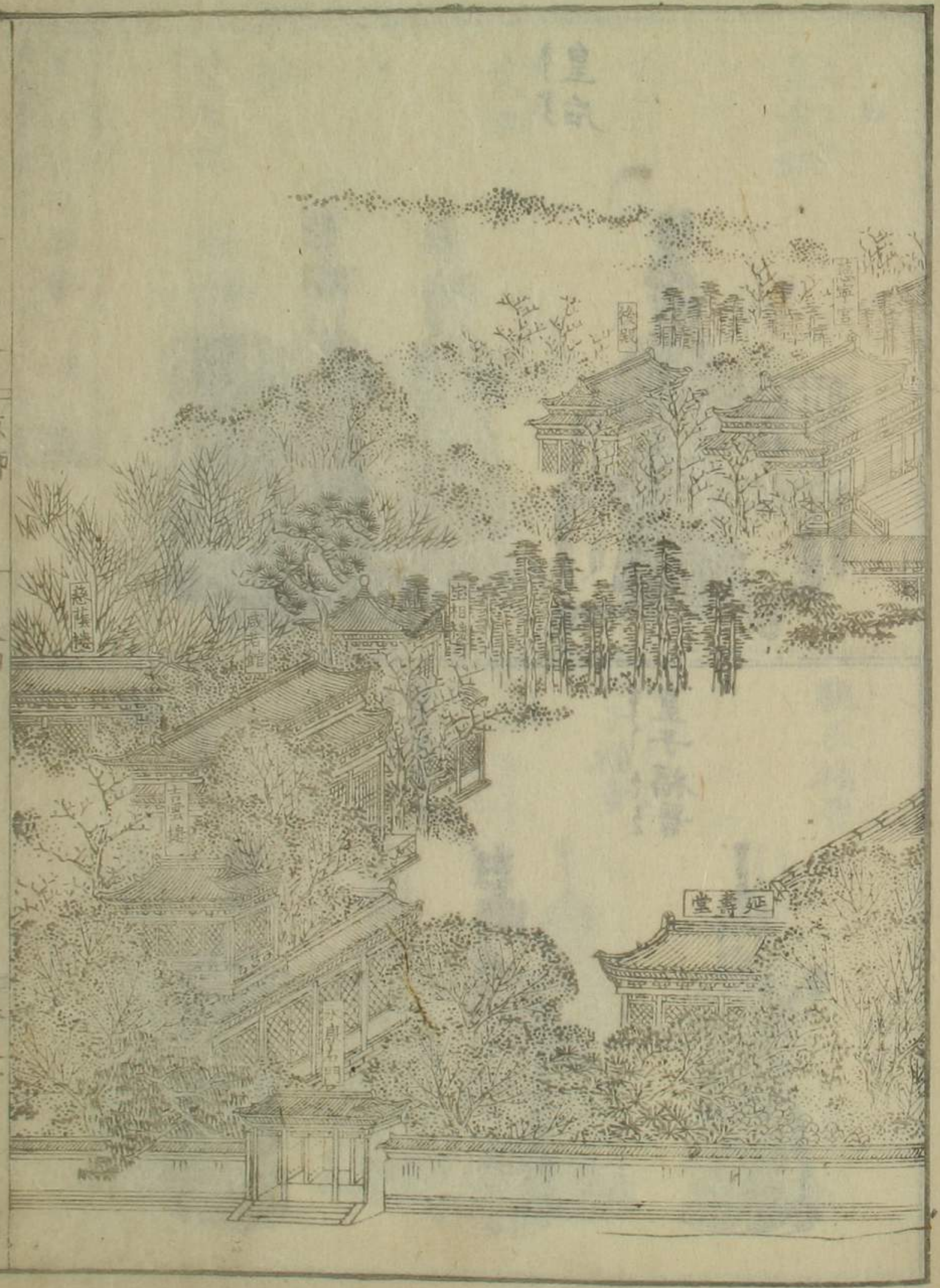
慈寧宮

此宮乃皇太后
聖后の正殿
ひだりまの拜
と名給ふ所
なり



六四

皇極



京師

大内

卷之一

皇太后

皇后



嬪

皇太子妃

皇子福晋



皇貴妃

貴妃

妃



親王福晋

世子福晋

郡王福晋

貝勒夫人



貝子夫人



鎮國公夫人



輔國公夫人



伯夫人



一品命婦



二品命婦



三品命婦



輔國公女鄉君



民公夫人



侯夫人



四品命婦



五品命婦



六品命婦



七品命婦

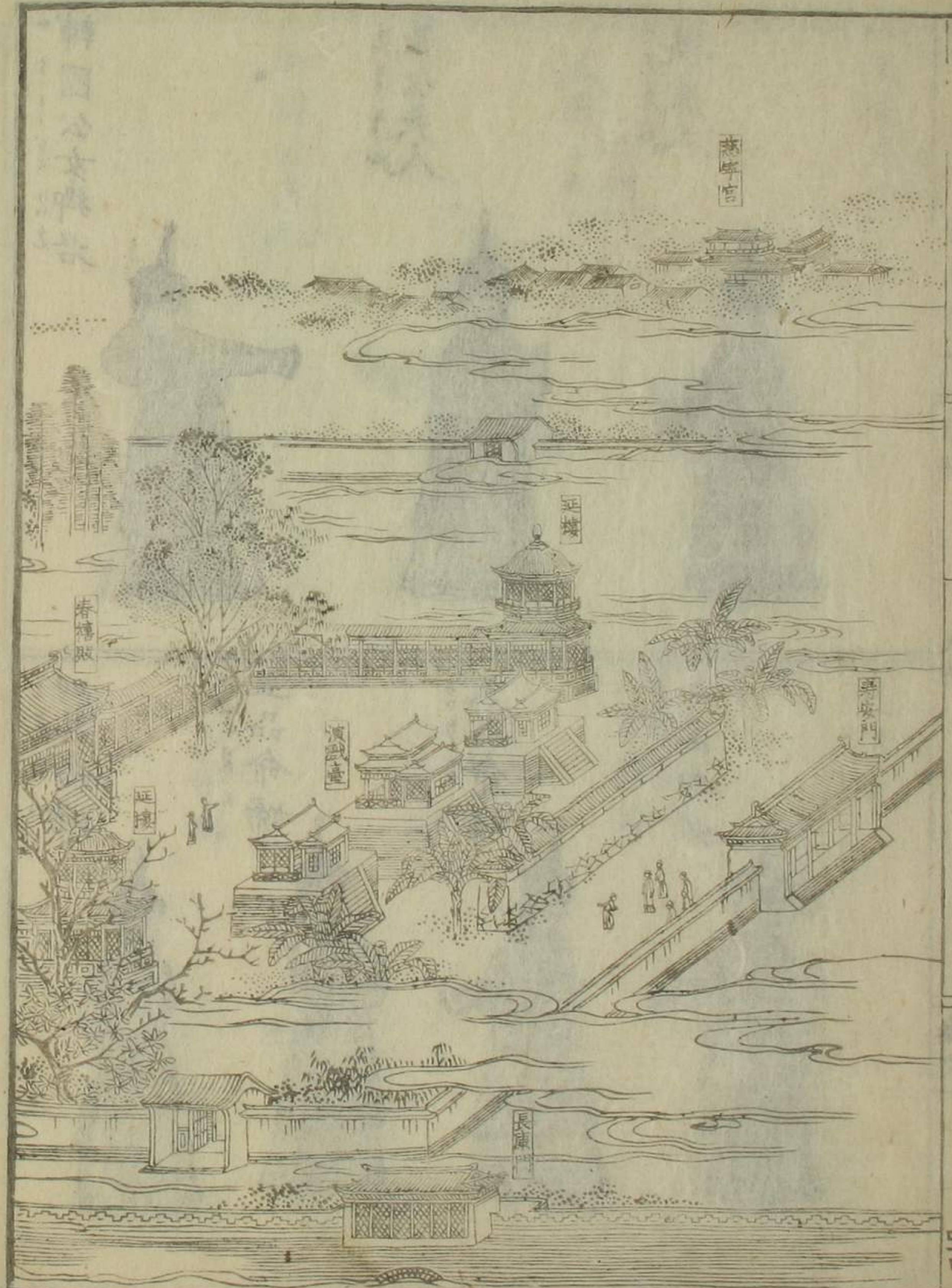


京師

大内

卷之一

トホエンキノロゴ
壽安宮之圖



乾隆帝御製の詩あり。建城隍廟於紫禁城內西北隅奉紫禁城隍之神建永佑廟於皇城西安門內奉皇城隍之神一如祭都城隍廟之禮歲以萬壽聖節並季秋遣內務府總管各一人致祭萬壽聖節神位前陳帛一羊一豕一果實五盤尊一爵三鑪一燈二秋祭陳銅二簋各二十餘同祭日均設樂於西階下日出前二刻遣官具朝服詣廟內府贊禮郎二人引遣官入廟左門贊引贊盥洗遣官盥洗手畢引升左階進殿左門就正中拜位前北嚮立典儀贊執事官各共通職贊引贊就位遣官就拜位典儀贊迎神樂作司香奉香盤進贊引贊就上香位引遣官詣香案前贊上香司香跪奉香遣官立上柱香次三上辦香畢贊復位遣官復位贊跪叩興遣官行三跪九叩禮典儀贊奠帛爵行初獻禮司帛奉篚司爵奉爵進至神位前司帛跪奠帛三叩司爵立獻爵奠正中皆退司祝至祝案前跪三叩奉祝版跪案左贊引贊跪遣官跪贊讀祝司祝讀祝畢奉祝版詣神位前跪安於帛篚叩如初退贊叩興遣官行三叩禮典儀贊行亞獻禮司爵獻爵奠於左贊行終獻禮司爵獻爵奠於右儀均如初獻贊送神贊引贊跪叩興遣官行三跪九叩禮典

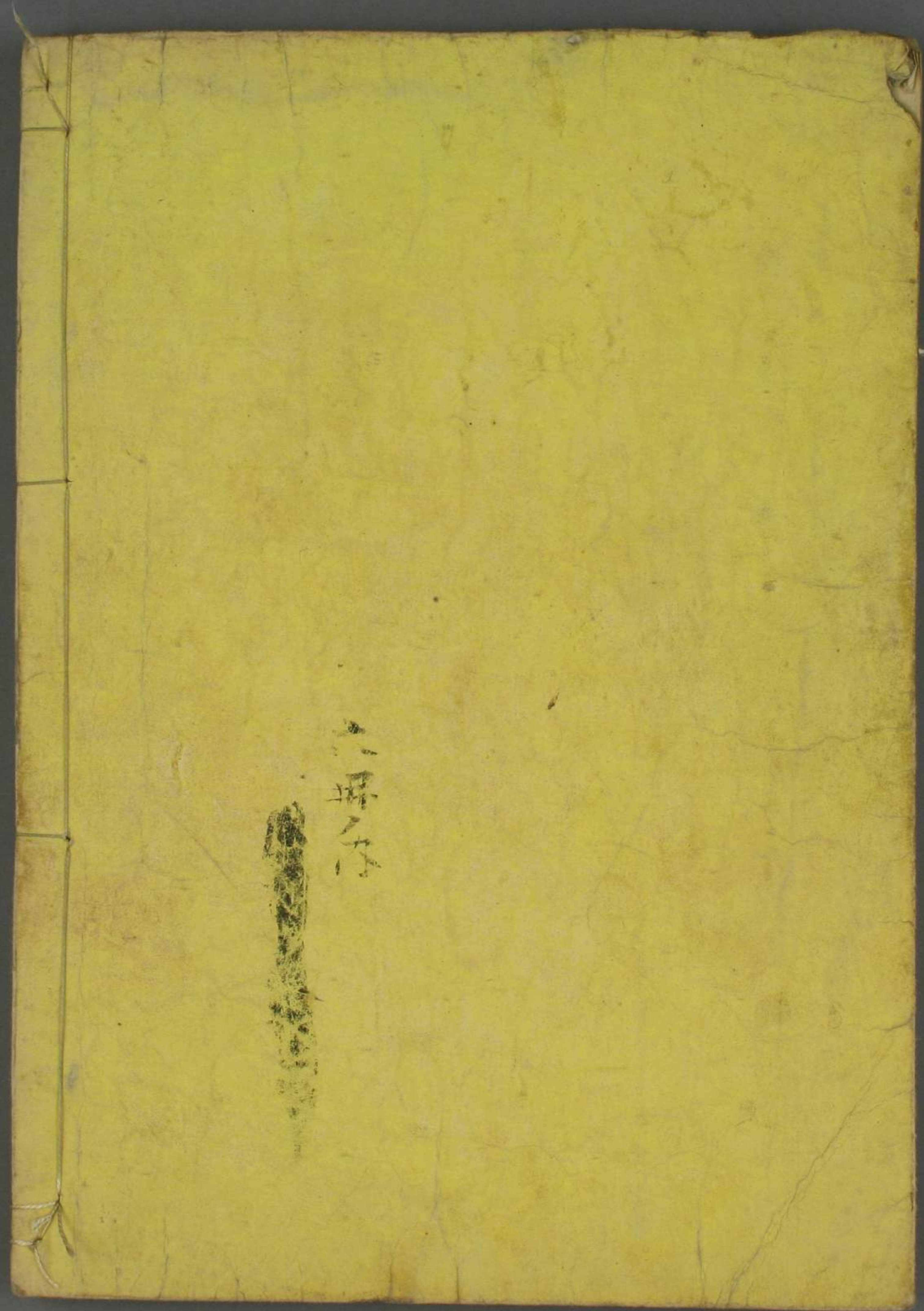
○寶華殿 兩華園の北あり。奉昭後門と名。殿の後よりあり。香雲亭と名。○中正殿 寶華殿の北あり。佛像と供以內監制。○英華殿 正殿の北あり。佛像と供以內監制。○中正殿 寶華殿の北あり。佛像と供以內監制。○英華殿 正殿の北あり。佛像と供以內監制。

○記馬神所 城隍廟の東あり。其路の西邊房を。○記馬神所 城隍廟の東あり。其路の西邊房を。○記馬神所 城隍廟の東あり。其路の西邊房を。

儀贊奉祝帛饌香詣燎所司奉祝次帛次饌次香恭送燎所引遣官避立拜位西旁東面候祝帛過引復位祝帛燎半贊望燎引遣官出望燎贊祝成引退如儀。○記馬神所 城隍廟の東あり。其路の西邊房を。○記馬神所 城隍廟の東あり。其路の西邊房を。

此紫禁城凡右之記がごとし其宮殿之執事儀禮ハ未だ未だ載るものあり。雖も多くこれと畧以考訂の條ありふらう。以て記る者繁きと厭ふ。棄んむを懼るもばかり。其詳なるは知らん。と歎け。大清會典ニ考とる。

水越后高田
久村國保
油 堅春日甲



六部考